

グループ「出藍」での活動を終えて

牛窪隆太

今回初めてリーダーとして総合の授業に参加し担当したのがグループ出藍だった。メンバーが加わったり、サポーターが変わったりと忙しいスタートを切ったこの活動もあっという間に3ヶ月が過ぎ、こうして今「あとがき」を書いている。

「出藍」とはグループメンバーから提案されて付けた名前であるが、その意味は「弟子が師よりもまさりすぐれる（広辞苑）」ことである。この名前のおり、出藍の皆さんはとてもまじめで(?)、皆さんと授業を進める中でいろいろと学ばされることも多かった。今、振りかえってみると、いつも笑いがたえない明るいグループで、リーダーとしては救われることも多かった。この場を借りて皆さんにお礼を言いたいと思います。

出藍の皆さん、皆さんが3ヶ月かけて完成させたレポート集が出来上がりました。常に笑いであふれたあの明るい教室を思い出しながら読んでください。

私にとって言葉が面白くて大切なものである

ソルヴェイガ スサンデリテ

1. 動機レポート
2. デスカッション
3. 結論
4. 終わりに

(1) 動機レポート

私はいつも言葉に興味をもっていた。今でもいくつかの言葉を勉強しているので、言語について調べて見たいと思う。

言葉の勉強は満足を与えるものである。

始めはいつも難しいけれども、外国語で話せるようになった時は楽しくなる。言葉の勉強をついでに色々な知識を得ることもできる。違う国の人と話せるようになったら、外国人の友達ができるようになるし、外国語の本、新聞、雑誌などを読めるようになるし、テレビを見ることもできる。情報の筋が増えてくると、もと客間的な判断をできるようになる。英語で大体どこでも通じられるから、ほかの言葉を勉強しなくてもいいと思う人もいる。私はそう思わない。外国語の勉強は必要だと思う。自分の母語と違う言葉ができるようになれば、考え方が影響を受けるし、生活も、心ももっと広がる。

外国の勉強のために一番適当な時間は子供の時である。子供は新しい言葉を覚えるために強い記憶力がある。だから外国語の勉強をできるだけ早いはじめなければならない。

言葉は面白いものだと思う。

言葉の多様性が世界の美しさの一つの点である。国の文化が分かるために、その国の言葉をお話することが必要である。言葉は文化をよく表す。言葉から国民性の特別な点を見えてくる。日本語を例にして見たい。元々日本語にはなかった、英語などから来ている外来語を見れば日本の文化について色々な事が分かることができる。例えば「プライバシー」や「アイデンティティ」という単語が昔の日本語にはなかったことから日本の文化が個人主義的な文化ではないということが分かる。

言葉は生きているものである。世界の言語は絶えず変化しているものだ。今は生まれている言葉や無くなりそうそうになった言葉もある。例えばシベリアやアメリカのインディアンの小さい部族の言葉のあいだ、一二千人しか話せない言葉もある。このことに考えたら悲しくなる。

言葉が無くなることについて友達と討議をしてみた。彼は、世界には一つの世界語がなかったら、人々の生活と国の交流がもっと便利になる。私はそう思わない。世界には一つしか言語がなかったら、つまらないと思う。言葉の多様性のおかげで世界がもっと面白い。

世界の言葉はいつもお互いに影響を及ぼしているから広く使っている言葉も変化している。変化を統制するために協力をしたほうがいい。そのために特別な機関を作っている国もある。こういう機関はマスメディアで使っている言葉の訂正をする。今は日本語が英語の強い影響を受けるから、言葉の変化はどんどん速くなる。片仮名の言葉が多すぎて、言葉がめちゃくちゃになる。日本の政府はまだこのことに注意あまりしない。けれどももっと大きい問題にならないために、速ければ速いほど注意をしたほうがいいと思う。

言葉は価値があって大切なものだと思う。

言葉は社会的な役目がある。今はほかの国では使っていない言葉がない国もある、けれども昔から言葉が民族の一番大切な事だった。民族が無くなったら、言葉も存在し続けることができない。それに自分の言葉がある民族がもっと強いと言えるだろう。

十三年前私の国は独立した。1945年から1990年までリトアニアと言う国がなかった。ソ連の時、リトアニア語という言葉は強い圧力をかけられた。人々が母語の価値を分かって、一生懸命言葉を守るように努力をしていた。自分の言葉があったのがリトアニアの民族の強さの一つの点だと思う。

(2) デスカッション

相手： ボムさん（大切な物について書いている）

外国語の勉強について

私： 今は世界の国の交流は強く成っていますから、国債売買とか、文化の交換などは日常生活に強い係わりのあることに成っていますから、外国語の大切さをよく感じています。

外国語の勉強についてどう思いますか。

ボムさん： もちろん外国語の勉強はとても役に立つことだと思いますが、最初は心の中から自分の国の言葉は大切になります。自分の国の言葉は大切ですから、外国語も大切することもできます。

自分の言葉を守るために外国語の勉強をしなければならないです。

私： どういう意味ですか。

ボムさん： 「守る」という事は「知らせる」という事と同じです。知らせる前に**外国語の勉強は必要です。**

私： 他の国に行って、自分の国の言葉、文化、習慣、などを知らせるために外国語を使う他ないという意味ですか。

ボムさん： はい、そうです。

世界では人々は色々な考え方をもっているから、色々な意見もある。例えば、国家主義的な考え方を持っている人々は、自分の国が一番だという事を信じていて、他の国の言葉はあまり大切ではないと思う。この事についてボムさんに面白いことを教えてもらった：自分の国を愛してたら、愛国心をもっていたら、自分の言葉を一番好きだたら、他の国の言葉の勉強も必要。自分の言葉しかできなかつたら、他の国の人々に自分の国の習慣を教えることができなくて、文化の交流もできない。

自分の国の言葉について

私： 私の国は複雑な歴史がある、比較的比較的に小さい国ですから、リトアニア国の人々にとって、自分のアイデンティティをよくわかって、国の習慣を守ることはいつも大切でした。アイデンティティを分かるために自分お言葉は必要でし

た。リトアニア語で話せるから、リトアニア人です。母語のおかげで自分の国籍をよく感じることができました。韓国人の考え方は同じですか。

ボムさん： そうですね。私にとって、母語は自然に慣れた言葉ですから、体の一部になっています。外国語は私の道具として、使うために勉強しています。日本について知りたい、日本の経済も知りたい、社会も知りたい、色々なことを知りたいです。始めの勉強は言葉です。

私： 国の言葉ができなかったら、国の文化の理解することができないということをお願いですか。

ボムさん： もし文化だけに興味があれば、言葉の勉強をせず、文化の勉強だけをすれば、直接に文化を感じることはできません。

私： 私もそう思います。国の言葉をできない人は、文化の勉強をするために、ほかの人に通訳された本を使う事しかできないから、変わったイメージだけを受けられます。

ボムさん： 言葉の使い方は一番大切です。単語の意味が色々あります。本当の意味は場所によって、場合によって違います。この微妙なニュアンスはとても大切事だとおもいます。同じの言葉でも訳は一つだけではありません。言葉の使い方では生活の習慣も含めています。つまり、単語を覚えることではなくて、言葉を使うことは難しいです。

私： この微妙な違いのおかげで言葉はとても面白い事ですね。けれども苦しい時もありますね。言葉の勉強の利益と苦しみを比べたら、どちらが重いですか。

ボムさん： もちろん人によって違います。言葉の勉強の利益は大きいと思います。国に行って、言葉を使いながら旅行をできます。

私： 旅行だけじゃなくて、住む事もできるようになりますね。

ボム： 勉強が苦しい時は、やはり、私は生きているという事を感じますね...

けれども楽しく勉強をしたほうがいいですね。

子供のころから言葉の勉強が好きでしたか。

私： いえ、大嫌いでした。とても難しかったですから。けれどもひとつの外国語をできるようになったら、自信を受けて、言葉の勉強を好きになりました。

ボムさん： いつ頃からでしたか。

私： 大体 15 歳の時でした。すばらしい先生のお蔭でかもしれません。勉強には先生の影響は大切だと思います。

よく考えたら、勉強の苦しみと楽しさ是一緒じゃないですか。例えば感じの勉強はすごく大変ですけど、勉強をしながら、漢字の美しさも感じるすることができますね。

ボムさん： そうですね... 一つの面白い事が気づいたことがあります：大体西洋人はみんな漢字が面白いと思いますね。アジア人は大体普通だと思います。

私： 私は日本語の勉強を始めたの一つの理由は漢字がとても美しいだと思っていたのですから。漢字の字は審美的な意味もあると思います。

自分の個人的な経験について話していたから、子供の教育の問題も出てきた。子供の体系は国によって違うから、言葉の勉強を始めるために最適な時間はいつだということについても話した。

ボムさん： 一番目の外国語の勉強をいつ始めたのですか。

私： 私は結構早いです。八歳ぐらいですね。

ボムさん： 最初の外国語はどんな言葉でしたか。

私： 英語。早く始めたいい。外国語の勉強を早けれな早いほど始めたらいいと思います。小さい子供は記憶力が一番強いですから、速く覚えられます。

ボムさん： けれども外国語の勉強は早すぎたら、子供の頭はめちゃくちゃになる可能性もあります。小さい子供の口の筋肉はまだ発展しているですから、自分の言葉で適当に話せるのが一番大切なことだと思います。

私： この事は大切ですけども、子供の時言葉の勉強をしなかったら、大人には勉強は大変でしょう？

(3) 結論

ディスカッションは結構うまく行った。自分の国について、お互いに色々な事を教えて、とても勉強になった。自分の国の歴史が少し似ている点を見つけた。例えば、韓国の歴史も、リトアニアの歴史も、自分の言葉あまり使っていない時があった。リトアニアの場合は学歴がある人々が自分の言葉を使うのは恥ずかしいと思って、歩ランド語で話さなかった。韓国は日本に占領されていた時は、韓国人が日本に対して大体同じ程度があったという事を教えてもらった。

言葉の勉強はとても大事なことだと言う事について意見は大体同じでしたけれども、何で言葉の勉強は重要という事について新しい理由を教えてもらって、とても面白かった。例えば、私にとって、自分の国の言葉と外国語はいつもあまり関係ない事だった。今はそう思わない。やはり、自分の言葉を守るために外国語が必要だと言うことが分かるように成った。

ボムさんも、私も、言葉の勉強しているから、言葉の勉強の利益と勉強の苦しみについて討議もできた。

色々な事について話していたのですから、一致する場合もあって、意見が違う場合もあった。意見が一番違う点は子供の教育についてだった。私の考え方は、子供が言葉の勉強を早ければ早い始めたほうが良いと言う事である。相手はこの事に対してなかなか賛成できなくて、私も外国語の勉強を早く初めて嬉しいから、自分の意見を変わらなかった。

世界には自分の言葉を持っている国が比較的少ないだから、その国の人々は大きな責任がある。世界の美しさを守るために、言葉の多様性を大切にすることが必要という事について意見は同じだった。

私にとって言葉が面白くて大切なものであるということを動機レポートに書いた。今は、もう一同そのことについて考えれば、私にとって、言葉はどんな事だか？ ディスカッションをした後、言葉は責任を持つべき事だということを分かってきた。自分の言葉がある国の人々は自分の言葉を守るために責任が必要だ。

(4) 終わりに

レポートを終わって嬉しい。始めにはテーマを決めて、書きたい事を考えって、後でディスカッションをしながら、クラスメイトの意見を聞きながら、新しいアイデアが出て来た。クラスで自分の考え方の説明を分かるようにするのが結構難しいだと思う。みんなの経験が違うから、相手は言いたい事をなかなか分かってくれない場合もあるけど、このような練習が役に立つと思う。

みんなに感謝をします。

日本の歌手飛鳥涼と日本留学

ソン ウケツ

- 一、動機レポート
- 二、ディスカッション
 - 1. 転機というのは？
 - 2. どうして日本留学は人生の転機だかと思う？
 - 3. 飛鳥涼と日本留学の関係は？
- 三、結論
- 四、終わりに

一、動機レポート

自分の人生が変わったの？

遊園地に行った時に、よくジェットコースターに乗りに行った。その小さいゴーカートどンドン前に進行していたと思いながら、急に方向を変えた。その不意な曲がりに驚いたが、時々変化が出てくるような人生と言うものを思い浮かべた。進学したり、就職したり、結婚したりして人生はある方向に沿ってポチポチ進行して行く。それに、もし名門学校に合格したり、大手企業に内定されたり、百万以上の宝くじが当たったり、玉の輿に乗ったりしたら、その人生には良い転機が現れてきつと思いがけなかった方向に進んで行くとは言えよう。勿論、それに対して悪い転機もある。人間にとって、自分の人生はどのように変わるかなんて、予測できなさそうだから、誰にも自分の将来について興味があるだろう。しかし、何で自分は今の状態に巻き込まれており、このままに生活を送ってくるかについて、どんな考えをしている？

私は七年前にドラマの主題歌「Say Yes」を通して、日本の歌手飛鳥涼（あすか りょう）のことを知っていた。それから、アルバムを色々鑑賞してコンサートを見に行ってから、飛鳥さんのことが大好きになった。ファンになった。あの日から、日本語を勉強しようと決めた。だから、大学の四年間専門勉強を以外にして、余暇を利用して日本語を少しずつ学んできて、そして、卒業して日本に留学に来た。四月の末に、武道館で再びコンサートを見に行った。鑑賞者がみんなステージに立っていた飛鳥さんの指示で同じ動作で手を振り上げたり踊ったりしたような日本現場なりの雰囲気を経験してちょっと不思議な感じをした。もし最初飛鳥さんの歌に興味湧かなかったら、今はきっとどこの会社で勤めているかもしれないが、そして、何年間に渡って身に付けていた英語をやめて始めから日本語の勉強をきつとしないだろう。ある意味で人生は不意に変わってきた。

人生とは人間が自分の好きな者を追いかけて夢を実現させるために、色々と工夫しているものである。視点を変えれば、自分の好きな者に左右されて、もともと全然思いかけなかった状態に落ちるという場合になることもあるだろう。例えば、飛鳥さんの歌に熱中になってファンとしての私はアイドルにもっと近づくようになりたいから、日本語の勉強を始めて、それから日本の物事についてもっと了解したいから、川端康成の「雪国」を読んだら、日本文化に溢れたわびとさびなどの審美観にも興を起こした。もう少し踏み込んでいうと、日本に留学すると決めた時に、ただ飛鳥さんの歌に拘わるばかりでなく、日本事情に関する様様な面で興味がもう広がってくるとも言えよう。

留学生活に足を踏み込むと、人生の転機の一つを迎えてくると言ってもよいだろう。そして、交差点みたい場所に立っている所で、留学生活に豊かな経験を積んで行けるか、それとも繁華な町で方向を見失うか、将来に対して不安もありながらも、チャレンジもあるわけだ。「雨にも風にも負けない心で」、飛鳥さんの歌を思い出してきた。次の曲がりには悲しくなっても楽しくなっても、必ず飛鳥さんの声が心を支えて歩いて行かせる。だから、人生はある期間に、好きな者に左右され、変えられ、維持され、そして、影響を与えてもらうのである。こういう者は一体どのような作用を動きかけるかと考えれば、やはり未来に存在することが今にはよく分からないが。でも、私にとって、せめて飛鳥さんの歌は一時の人生の間に、前進するように、強く力をもたらす者である。

**CHANGE
AND
ASKA**

A handwritten signature in blue ink, appearing to be 'ASKA', written in a stylized, cursive script.

二、ディスカッション

「転機」と「日本留学」と「飛鳥涼」の三つの中心詞を巡って、ディスカッションを行った。ディスカッションの相手は「嵐」の林さんである。林さんは私と同じように、私費生として留学に来て、私のレポートを読んで色々と共感をしていた。

1. 「転機」というのは？

林：孫さんのレポートのタイトルを見て、その内容はきっと日本歌手飛鳥さんと密に関係があると思うけれど、最初の部分は「転機」について色々と書いてあるね。まず、聞いたいたが、「転機」とはどういうことだかい？

孫：大きな質問だよ。 「転機」というのは転換点ではないかと思っているが。でも、このレポートの中に、表したい「転機」の意味と言えば、やはり人生の間に好きな者に左右されて影響を受けるから、この前は思いがけない所が変わってくるというような者って感じをした。簡単に言うと、「変わった」というような感じかな。

林：なるほど。

2. どうして日本留学は人生の「転機」だかと思う？

林：「変わった」と言っても、日本留学は孫さんにとって、どんな転機になったか？それとも、歌手飛鳥は孫さんの人生の転機になってきたか？

孫：うん、今は日本に来たばかりなので、この留学はどんな影響を与えてくれるのかと聞かれると、これは将来の存在だから、今にはまだ分からないね。しかし、きっと何かとなってくれると考えているよ。飛鳥さんと言及したら、転機と言うより、やはり最初日本語に興味を注ぎきっかけじゃないかと思っているが。

林：そうですか。というと、この「転機」は日本留学っていうことだよ。でも、転機と言えば、僕はやっぱりちょっと大きな転換点を思い出した。孫さんは「変わった」という意味を解釈してもらったが、もっと詳しく説明してみれば、、、？で、日本に来て一体何が変わってきたかい？

孫：え〜と、まず、言語問題は何よりだよ。そして、生活の色々な方面も変わってきた。例えば、日本では一人で小さい部屋に住んでいて、家事や洗濯や全部自分でやらなければならない。中国では、家族のみんなと一緒に暮らしていて、その温かさをここでは全然感じられていない。それから、両親にお金を払ってもらっても私費生としての私は東京で住

んでいるのはちょっと大変だと思うが、物価が中国より何倍高いので。だから、平日にはバイトしたりしてできるだけ自分の力で生活を維持したいが。このように、勉強と生活の両方をうまくさせるのは日本では留学の状態、中国では何も心配しない生活状態と比べると、変わったものがはっきり分かってくれるでしょう。

林：なんとなく。僕は今、大体孫さんと同じように生活を送っているが、このような生活状態を日本に来る前にもう予想されていたけど。ただ生活状態が変わったと考えていても、やはり「転機」とは言えないだろう。ずっと前に進んで進行したことにもいつも「変わった」部分が付いているじゃないか。

孫：まあ、それはそうだけど。でも、やはり日本留学は私の人生の転機になってくると思っている。「転機」ってような者はどこに存在するかと考えているか。状況がだんだん変わっているうちに、必ず違った部分はどんどん出てくるのでしょうか。違った部分があっても、転機は現れて来るじゃないか。もう少しオーバーに説明して見れば、日本に来て生活が一応変わったのはただ表面的なものだが、私と一緒に日本に住んでいて自分の将来のために、頑張っている留学生達にとって、色々と力を入れており、たくさん経験を積んできて、何年間の後で辿り着いた場所に立って振り返れば、今の留学経験は必ずそういう簡単な体験じゃないと思うよ。生活能力や判断能力を強めたり性格が強くなったりして、それは大事なもので、未来の人生に大きいな影響をもたらすから、「転機」と言ってもいいでしょう。

林：なるほど。

まとめ：

このレポートは最初「転機」を踏み込んで少し述べたから、ディスカッションはまず「転機」を巡って行った。「転機」についていくつかの質問をされて、日本に留学に来て、どんな経験を積むか一層分かるようになってきた。日本留学とは、ただ単純に生活状態が変わっただけでなく、留学を通して、もっと視界を広げられ、能力を強め、色々なことに直面しなければ行けない。だから、将来の人生に影響を受けられるようなこういう経験は人生の富とも言えよう、しかも、こんな過程では挑戦もあるし、希望もあるし、人生の転機だと思う。

3. 歌手飛鳥涼と日本留学の関係について

林：レポートのタイトルから見れば、飛鳥が日本留学との関係を述べていると思ったが、何で飛鳥は転機ではないか？

孫：最初は、飛鳥の歌がすごく気に入った。歌詞を理解できるように、日本語の勉強を始めた。でも、それはただ日本語が好きになったきっかけじゃないかと考えている。

林：確かに孫さんは飛鳥のスーパーファンだね。僕も音楽が大好きだ、特に曲と詞が好きだ。孫さんは飛鳥の何が一番好きだかい？飛鳥のため、日本に留学に来たかい？

孫：最初は日本語ができなかったから、ただ飛鳥に作られた曲と飛鳥の声が大好きだったが、後は日本語を学んで歌詞を少し理解できるようになった。しかし、日本に留学に来たのはやはり自分の将来行く道を考える上に、決めたのだ。日本に出発した時、もう日本の言語や文化や社会事情など色々な方面に興味湧いてきたから。

林：飛鳥の歌から日本の文化へ少しずつ興味を生んできたのだから。僕は音楽が好きだけど、音楽が友達みたいな存在だと思う、気分転換できるとか。で、孫さんの心の中に、飛鳥はアイドルに等しいだろう？音楽のそのものについてどんな考えを持っている？

孫：ハハ、ある程度でいうとアイドルと言っても言い過ぎないと思うが。日本では、若者達がよく流れを追いかけたりアイドルの髪型や服装を真似たりしているとかような気がするが、私にとって流行音楽は気楽にさせられるもので、好きは好きだけど。でも、飛鳥の歌は非常に感動をさせてくれて、曲と詞の書き方が細かくて私の性格にぴったりしていると思う。ある程度で中毒してしまう恐れがあるかな。(笑)日本に来た後、コンサートにも行ったし、ファンクラブにも参加したし、それはファンとしての活動で、やはり日本の生活の部分だと思う。一方、日本で日本語を勉強しているし、歌舞伎などの伝統的な芸術を味わったし、バイトを通して日本社会にもっと接触できるし、今の私には、単純に飛鳥の歌に拘わるわけではなくて、様々な物事を知りたいと思っている。勿論、このような日本社会や文化についての興味はこの前にもう出てきたのだろうと考えられる。

林：だから、飛鳥の原因で、自分の人生が変わったと思う？

孫：そう言っても大丈夫だけど。なんか、コンサートを見に行った時にも日本人のファンと話し合っていた時にも、ちょっと不思議な感じをしたよ。飛鳥の歌はどういう力があるかと考えると、うん、例えば、日本語を学んできてうんざりになった場合もあるし、日本で生活して不意な場合もあるし、その時に絶対に飛鳥の歌を流れさせて耳を澄まして聞いてから、悩みを忘れてすぐ元気を出した。だから、飛鳥の原因で人生を変えるじゃなくて、ある意味で飛鳥の歌は確かに進行してきた道にたくさん力量をもたらしてくれて、そういう心を支えるものだと感じをする。これからも、是非飛鳥の歌の元に、日本で色々と体験して経験を積んで行こうと思う。

まとめ：

今回、飛鳥を巡ってディスカッションした。林さんも流行音楽が大好きだから、音楽について色々相談してきた。林さんにとって、音楽が娯楽手段だが、私にとって、飛鳥の音楽が最初日本語が好きになったきっかけだが、今にはもう国や言語を超えて日本を理解できる窓の一つになって、それから、温もりを一杯込めていた曲がいつもになっても心を支えになってくれるものだと思う。心から、大好きだ。

三、結論

日本に留学に来たきっかけは何だかと聞かれる時に、こっちからすぐ「飛鳥のコンサートを見に行きたいから」という答えを出したら、相手がよく幾分不思議な顔をしてきた。それは私がファンとしての答えだが、実は日本に来てから、あんなに気楽な生活じゃないと思う。ディスカッションを通じて、日本留学の原因や生活の目的を本気に考えてきた。

飛鳥の音楽が好きになってこそ、日本語に興味湧いてきた。それから、時間の流れに連れて日本語ばかりでなく、日本の文学や文化や社会などの色々な方面にも関心を持ってきていた私は飛鳥が日本との繋がりをもたらしてもらおうと自分自身感じをされている。だから、留学をしている私が日本に住んでいるチャンスを掴んで単純的に言語の勉強するでなく、日本人との交流を通して文化をもっと理解したい。通学でもいいし、バイトでもいいし、たっぷり社会にとろけて、平日の教室で得た知識を生活の中で知恵に転換してみて、色々豊かな経験を積んでいこうと考えている。

「好きなものに左右されて影響をうけられて、この前に思いがけなかったところに来た」という感じをしみじみにされて、ある意味でこんな思いがけなかったところを「転機」にして、これからもしっかりと歩んでいきたい。だから、こういう風に、十分に様々な体験してられる留学は人生の一つの転機じゃないかと思われる。そして、好きな者を追いかけて夢を実現させるために、色々工夫している過程の中では、私にとっては、必ず飛鳥の音楽が永遠伴いであろうと信じられている。

四、終わりに

このレポートの終わりの時に、東京はもう梅雨に入って日に日に蒸し暑くなってくる。春には始まったばかりの時に桜が飛び落ちた景色を思い出して、面影橋の景色だった。今は紫陽花が盛んでいるところである。こんな綺麗なお花はこのやや嫌な季節にも人々を惹かれている。まるで、このレポートが止まったところに、出藍のみんなに励んでもらって、やっと出来上がったようになった。ここまで一緒に頑張っていたクラスのみんなに感謝します。

私にとって友達とはこの世の中で暮らして行った証拠である。

総合 3-7 出藍組み

崔 智媛 (チェ ジウオン)

目 次

1. 動議

* このレポートを書きになった理由

1) あなたにとって友達は何ですか？

2) 私にとって友達とはこの世の中を暮らして行った証拠である。

2. ディスカッション

1) 動議レポートについて

2) 友達にしてはいけないことはどんなことがありますか。

3) いい友達と悪い友達を区別することに対してどう思いますか。

4) あなたにとって友達とは何ですか。

3. 結論

4. 終わりに

1. 動 議

1) あなたにとって友達は何ですか？

韓国では友達というのは‘チング’と言う。私は始めには‘チング’という言葉が漢字だったのを知らなかった。辞書を引いて見るとしたしい親字とむかし舊字を使って意味は‘長くおいて近く付き合うこと’と書いていた。私には友達との予期しなかった会の瞬間が強い記憶に残っている。そしてその記憶はさらに強い懐かしさを作った。友達と私だけの美しい追憶、たぶん止まらない時計になるそうだ。

私たちは時々自分自身も分からないうちに相手に期待したり何か対価をもらおうとした事が誰でも一度くらいはあるはずだ。例えば‘私がこうわけにやってあげたから同じくらいもらえるのが当然だろう？’また、自分が思ったほど相手がやってくれないと‘あ！この人は本当の友達ではなかったんだ。’と自分の気持ちで考えやすい。

1999年、冬のことだ。7年間とても仲良い友達と別れた事がある。別れた時、一方には悔しいしくて悲しかったが私の人生に一番大事な経験になった。その友達と遠くなって感じたのは、本当に寒心に堪えない、恥ずかしい自分だった。言い換えれば人間関係に対しへたくそだったと言うか。その友達が病気になった時はどんなに遠くても薬を持って行ったり、私にうれしい事があつたらいつも家族よりその友達がすぐ思い出した。また、その友達がくるしつらい問題がある時は助けてあげるのが差し当たりだった。大変な状況にいる友達に行った時、‘きっとお前が来てくれるのを知ってたわ。’という話を聞いた瞬間、胸が暖かくなる時もなさそうだ。理由はそのほど友達は私を信じてくれたし、つらい時、だれかを思い出して安心するのは絶対やさしことではないから。また、そんな友達に失望をあげたり心に傷付けるのが一番いやだった。

それが私が友達に対し対価をもとめた。友達の間が一番悪い、バカな考え方（ここでバカな考え方というのは友達に期待したり対価をもらおうとすること。友達以外に人間関係に対してしてはいけないことである。私はこれがバカな考え方とっていた。）だと思ったのがまさに私だったのである。その人と絶交したあと各自の道に行ってしまったがその時が今の私にはとても大きい勉強になった。ここで勉強になったのを説明するとさらに一歩ゆずって人々を見るようになりまた、人の間に未熟さの中で人間関係に対し見解が広くなった事。悪い友達かいい友達か考え前、自分自身が謙遜な態度を育つ、相手に立場になって反省してみる勇気が必要と思う。それで友達は私に鏡がつけている教科書みたいな存在でもある。

2) 私にとって友達とはこの世の中を暮らして行った証拠である。

私にとって友達はこの世の中にいないといけない酸素と同じだ。いないといけない事、それが友達ではないでしょうか。生きて見ると様々な部類の友達に会う。悪い友達、いい友達、変な友達、面白い友達、怖い友達、疲れた友達、等々・・・本当に各自の性格を持っている人間たちので事々に揃えてあげたりもらったりするのは大変。そのようなわけで家族以外に何も望まないで無条件的な愛と言っても大丈夫かもしれない。もし、私に友達がいなかったら世の中を生きて行く価値を感じられない。いや、日本にいる今の私が存在しないらしい。

もし、私に家族ばかりだったら私の存在を知らせる方法もないだけでなく、何よりこの世の中を一生懸命生きて行こう意志もないかも知らない。私という存在に誰でも関心を持ってくれないと学校生活や社会などでも生きる意味とか楽しさはありません。

皆が知っている、友達がいないとどんなにつらいのか。あるいは人々と交われないだけのけ者になるとどんなに寂しいかは考えたことはあるでしょう。それでは、‘私にとって友達とはこの世の中を暮らして行った証拠である’の意味を分かりましたか？

また、私が書こうとした理由はだれかが私という存在を覚えてくれる事も、この世の中を生きて行く事のうれしさだけではなく、今の友達が現在の私には小さな歴史になるのもので、私の証拠を見ながら本気で生きて行きたいための原動力になれるのである。

2. ディスカッション

私は人間関係はとても大事なことだと思っている。それに関して人間関係に近く話しやすいことが友達に関するテーマだと思ったからだ。今までの人生というか一番私たちの生活に影響を受けるのは家族と友達だと思っていることもある。テーマは少し重い話とかプライベートの話になってしまう心配もあるのだがこのテーマのきっかけで自分自身を振り返ってみることもなれるためこのテーマを私のディスカッションの主題に決めた。

1) 動議を読んだ後 (ディスカッションの相手：中国から来たイさんと)

イ : 私も友達とつらかった経験があります。少しは思い出したくないんですけどチ

エさんの動議を読んで興味があります。もちろん私にもつらかった経験がありますよ。その事で友達と彼氏両方別れたんです。今は笑いながら話せるんですけどとてもつらかって人間関係に対し、いろいろな見方を考えて見るきっかけになりました。今もいろいろな友達がいるんですが、前よりあまり心を開けないんです。これは少し残念な感じがあるけれども同じ同じ経験はほしくないですね。チェさんもつらかった経験がありそう。この間、みんなとディスカッションの相手を探す時、チェさんと一緒に話してるいろいろな人たちを見て面白いテーマかなと思いました。

私 : ハッハッハッハ！ありがとうございます。そんなことはありません。でも、みんな私のテーマに興味を持ってくれてうれしかったんです。みんな同じ経験があるらしいですね。それで話しやすいし面白かったです。私も7年間親友だった友達と別れてすごく苦やしつらかったんですけどそんな経験のおかげで今の私が存在できると思ってます。つらい事を知らない人は本当の幸せも知らないはずだと思うしずっと幸せなことばかりだと幸せの楽しみも知らないと思うからです。つらい経験を教訓にしてさらに人間関係に関する見解が広くなれると思ってます。自分のことばかりするとストレスとか問題などがたまるはずで

イ : 今はどうですか？

私 : さっき言ったとおりに回りに親しい友達はたくさんいますけれども二度とは同じ経験にならないように期待とか対価は考えていません。その方が相手にも私にも大きい問題にならないしストレスもないから適当に関係を有志してます。

イ : 私もそう思うんですけど相手が心を開けると私も開けるし私から心を開けて近づきこともあります。でも、あまり信じたくないんです。

私 : そうですか。でも、どちらからはあまり大事なことはないんですね。

* ディスカッションよりアンケートみたいな感じがあった。一つ知ったのは人間関係を仲良くしたいと時々自分の意見をはっきり伝達するのが必要ことだった。あまり自分の気持ちをがまんしてずっと自分の心の中におっていると結局、自分と他の人との関係を難しくなるだけだ。自分から言わないと相手は何が問題か知ってくれないからだ。

2) 友達には絶対してはいけない事はどんな事がありますか？

(ディスカッションの相手：フィさん韓国にいる私の婚約者)

フィ : まず友達をだますことと思います。どんな意味でしょうが、だますのはだめですね。

私 : それが善意のうそでもだめですか？

フィ : だめです。どんな意味でしょうがもしそれが善意のうそであっても全部、話して理解してもらうのが重要だと思います。どんな場合でも本当の友達ならうそつかないんです。

私 : もし、チョさんの親友の彼女が浮気しているのを目撃しました。チョさんならその友達に言ってあげますか？

フィ : それはうそをつく必要がないんですね。それはただ言ってあげるのがいいかあげないのがいいかの問題だと思います。

私 : 自分は知っているのに友達に言わないのもうその一つではないでしょうか。間違っているのに友達に言わないとその友達をだますことと同じでしょう？

フィ : これはうそと真実の問題ではありません。口をつぐむか口に出すかの問題ですね。もちろん言わないとうそに言うことにも一理はありますが、友達の状況を考慮して言うか言わないかを決定することと思います。真実を言わなければならないことになったら少しこのテーマの質問とは似合わないですよ。真実という言葉より現実の言葉が正しいと思います。彼女のことを知らない友達にどうやってよく言ってあげるかを考えた方がいいでしょう。

私 : もちろん現実を言っても言わなくても悲惨な結果を齎すのはどれでも同じように見えるでしょう。

フィ : そうですね。友達がどんな状況にいるかをまず考えて判断する、また判断の後に言うか言わないかを決定するのが順番ではないでしょうか。

私 : 真実ではなく現実かしら.....

フィ : そうですね。男女の問題はむずかしいから...もし、私が言った後にどんな状況

が起るか、また、私が言ったからその二人の関係がどんな結果になるのに対して私の責任も必要でしょう。

- * 私の質問との考えていなかった答えが出た。私の質問との相違なディスカッションになってしまったかも知れない。少し私が意図したこととは乖離感もあったかも... チョさんの意見は友達には心から真実に出会わなければならないことだった。その以外に他の友達の意見もたくさんあった。例えば s e x とか友達の恋人を取ってはいけないことか、また、賭博など面白い話しも出た。一つ目、s e x の場合 ‘好きじゃなかったら s e x もするな!’理由は韓国で生まれてずっと住み続けた人なら永々 (いつまでも、永遠に) 友達になれないと思うからだった。二つ目、‘友達恋人を取るな!’理由はみんな知っていると思う。でも、ここで考えた以外の反論も出た。反論は過去、友達の恋人だった。しかし、今は私の彼女になった。それで一生彼女と住んだら彼女は一生友達の女?その考えはバカみたいな物語だ。なぜ?私の人生を友達の為、この世の中を暮らして行くものではないからだった。三つ目、賭博は?最初は面白さで始まったけれど雰囲気盛り上がりお金の問題も必ず起るはず。それで義絶した友達を数え切れないほど多く見たからだ。

3) いい友達と悪い友達を区別することに対しどう思いますか?

(ディスカッションの相手: クラスメートの韓国人のチョさんとフィさん)

フィ : 心から私を信じてくれるひと。お互いに気持ちがよく通じあう人がいい友達だと思います。私にとって悪い友達というのはいないです。友達は友達だし悪い友達とはいらないことです。知り合って暮らしながら友達と考えるけれども私に悪いと考えるとそれはもう友達という範囲を去ることだと思っているんです。

私 : 友達の範囲を去ったのはどんな意味ですか?

チョ : 妨害者。他に敵と言った方が理解できるかも知れません。もっと優しく説明するとそのまま知り合いひとです。

私 : 暮らしながら円滑な生活のために友達のように生活した人もいますがそれは友達ではないと意味ですよ?

フィ : 敢えてよく知り合って一緒に時間を過ごしても私に悪い意味の人を ‘友達’ という言葉にまとめたくないです。立場を変わって聞きたいんです。今のチェさん

の周りの友達の中でいやな人がいると思います。仲良かったかも知れませんが、それでもその人が全部チェさんの友達ですか？

私 : それはそうなんですけど..... (私は彼の**鋭利な**質問に全然、答えなかった！)

フィ : 私も同じ意見です。そうやって親しかった人を友達だと考えことはしません。

私 : そうすると悪い友達というのは本当にいませんですか？

フィ : 悪い友達という意味は曖昧模糊 (アイマイモコ) としているんですね。妨害者か敵ですね。同級生だってよく知り合って暮らしてみんなが友達になれるものですか？また、私と似合わないし真実でもないし悪いことばかり起こる人は友達ではないだけ、悪い友達というものはないの意味です。友達という意味自体が信用できる人で、私はその人たちを友達と呼びますよ。

私 : もし、今まで親友だった友達があなたに悪い影響をくれて始まったらその人も友達ではなかったんでしょうね。また、そんなに信じたのに犯罪者になってあなたのことも取ろうとしたら (家族とか彼女など) どう考えます？

フィとチョ : 人は生きて行きながら変われるもの。数年間知り合ったけれど私に大事なものを奪おうとしたらそれは '友達だったのに.....' という言葉が出ないんですね。それはすぐ、直接的に殺しやつになるですね。

私 : は、は、(言葉が出なかった、、、 ^^; _ _;;)

フィ : また、私の友達になれるのは難しいことです。

私 : それはどうしてですか？ (私はすごっく怖かった)

フィとチョ : やかましい私たちの気に入らないとだめだからです。

フィ : 友達という言葉自体が大事なことなのでいいとか悪いなどの形容詞は使えないんですよ。

私 : そうですね。結局、自分の主観的、つまり私の基準に彼らがどんな意味かにと

って違うものだと言いたいことなのでしょう。

ファイ : もう一つは何とも言えない事情が行って間違いな行為をした友達ならば私の心を痛める友達で、悪い友達なんか言えないですね。その友達は社会的に犯罪をして悪い人になったけれども私に悪い友達ではありません。

* 考えた以外、少しは冗談をした感じもあった。しかし、他の人々にどうやって読んでもらうかは知らないけれども私にとって大事な時間になった。また、友達という言葉の前はいいとか悪いなど他の修飾語が必要ではないという意見に深く感動した。

4) あなたにとって友達というのはなんですか？

イ : 私にとって友達とは近ければ近いほど気をつけなければならないものである。

ファイ : 私にとって友達とはまた他の私、つまり、全く違いさがある自分自身である。本当に似ているものより全く違うことがもっと多い存在からだ。しかし、友達から感じるのまさしく私ということだ。一緒にいると私自分を振り替えさせる存在である。

チョ : 私にとって友達とは友達という言葉の前、どんな形容詞を付けられないことである。友達はそのとおりに友達だけだ。

アルペル : 我と一緒にいる時どんな物も怖がることはなかった。

アレクス : 友達というのは全ての人たちがみんな私のそばを去った時私に来てくれる人だ。言い変えれば世と断絶になる危機から助けてくれる人。

ベゴニャ : 私に対する真実、他にあなたに対する真実を教えてあげる人。

スザンヌ : 寂しい時電話をかけたい人。小さい手紙を書きたい人。

3. 結 論

四つの主題でディスカッションの後、私にはこういう結論が出た。それから私の結論を二つに別けて書いてみた。

一つ目、いい友達との関係になることで妨害になる心あるいは考え方。

- 例えば
- 1) その友達が私だけ見守ること
 - 2) 絶え間がなく比較する競争心
 - 3) 外見と姿だけみて人を判断する心
 - 4) 私の友達ならムズケン私のことを理解し、私のそばにいないとだめだという利己心
 - 5) 弱点、あるいは不足さをからかうこと
 - 6) 自分の利益だけみて友達あるいは他の人の人間関係を利用しよう心

二つ目、人間関係にとって相手はもちろん私、自分自身も忘れずに努力しなければならないこと。

- 例えば
- 1) 私の弱点あるいは恥ずかしく考えた部分を正直に受け入れ私に言ってくれること
 - 2) 機転とユモアを適切に使えること
 - 3) 相手あるいは私の弱点を見逃してくれる余裕なところ
 - 4) どんなに近い友達でもむやみにもてなすではなく親しければ親しいほどさらに基本的な礼儀を守る姿勢

(韓国ではこういう言葉がある ‘近ければ近いほど人間関係は気をつかなければならないものだ。)

4. おわりに

これまで友達以外に人間関係に関してしてはいけないことをもう一度確認してみたし、また、私の人生にとって人たちとの調和をとれるのがどれほど重要なことか明らかにできた。この結論を見ながらいつも謙遜な態度を忘れず、自分を反省してみるきっかけにもなり、様々な人たちと話しながらこの結論まで行くのが難しかったが他の人々も私のレポートを読んで自分自身を振り返らせてみるきっかけになることを望みながらこのレポートを済ます。出藍の皆様、ボランチアさんに真心から深く感謝しています。みんなとこの授業で暮らしながら感じたのはやはり私に友達とはこういう存在だった。くれる物もないし好きだ。そばにいてくれただけで好きだ。もっていることが一つもないけれども友達という言葉で笑えるんだ。私に大変なことがあっても、泣きたく時にも私のそばには友達がいた。この文を読んでいるあなたがまさに私の友達だったんですよ。みんなのおかげで私は本当に幸せな人です。

漫画現象から見る日本社会

チョウ カ

- 1、動機
- 2、ディスカッション
- 3、まとめ
- 4、結論
- 5、終り

1. 動機

皆さんは日本の一つの名物と言われるマンガをやるはずだろう。マンガについて皆はどういう感じを持つか。日本に来て、スーツを着たビジネスマンが電車内で真剣にマンガ雑誌を読んでいるのを見て驚いた体験があったか？

何れにしても、私の個人のイメージとして、日本にはマンガがあふれていると言っても言い過ぎないだろう。書店にばかりかコンビニエンスストアなどのところの雑誌コーナーには毎週特定の曜日になるとマンガなどの山ができる。

かつて『週刊少年ジャンプ』で大人気を誇った「Dr. スランプ」(鳥山明)の単行本は、初版で220万部ということがあった。他の書籍とは完全に感覚が違うのである。そして、日本で1年間に販売される本の約4割をマンガ雑誌・単行本が占めていることになるそうです。漫画にとって、このように立派な発行量は世界でも数多ではない。

日本のマンガの特徴は、まず読んでいる年齢層が幅広い。下は小中学校生から、上は社会人まで、様々な人々に読まれている。これだけ多様な人たちを相手にするのだから、当然雑誌のテーマと種類も様々である。少年向けのスポーツものや学園もの、少女向けの恋愛物が多い。大人向けマンガには、ビジネスマンを主人公とした仕事や恋愛をめぐる人間関係を描いたものもあれば、過激な性描写のポルノマンガもある。マンガ専門誌で連載されているものばかりではない、新聞には風刺画や4コママンガ掲載されていることが多い。

もう一つ特徴は、扱うテーマが多様なことだろう。学生向けの歴史参考書や、ビジネスマン向けの経済学をテーマにした本まで、マンガを用いて説明するスタイルが当たり前のようになっている。例えば私が読んだ石ノ森章太郎の『マンガ日本経済入門』(日本経済新聞社)と言うマンガもそんなタイプである。同じように「マンガでわかる～入門」とい

った本は多数刊行されている。さらには、刊行物ではないが、社会人候補生に配る会社紹介のパンフレットをマンガで描いた会社もあった。やはり、「親しみやすく、わかり易い」という理由だったと思う。

マンガはコミュニケーションの手段とするメリットが明るくなった。だが、どうしてただ日本でマンガはこんなに流行っているか。日本社会でマンガは単なる「紙に印刷されたメディア」というふうに他のメディアと同列には扱われず、何らかの意味を付けるはずだ。マンガは今や日本を代表する文化。日本人にとってマンガは、情報を視覚化して伝えるための一つ的手段として確立された文化と言える。もはや子供向けの単なる娯楽的な読み物にとどまっていないことは確かなようだ。

実は昔私もマンガのファンであった。毎日マンガに熱中した。マンガは私に伴って、楽しく短い幼児時代を過ごした。マンガについて色々ないい思い出がある。だが、年齢にしたがって、漫画をあまり読まなくなっていた。大人になると、心持ちも少しずつ変化になったのだろう。そうして、大人だったら、まだ漫画なんか読むのは可笑しいと思われる。つまり、内部と外部の原因で、私は漫画に遠くならせた。しかし、日本では、マンガとはただ子供向けの読み物のみならず、いろいろな年齢の人も読まれる。大人も子供たちように勝手に漫画を読むのを見つけた。電車の中でも年上はゆうゆうと漫画を読むことは一回しか見ないことではない。それは以前の日本社会に厳しい規則のあるという印象とぜんぜん違った。「日本で大人が漫画の読むことが認められている」という現象(以下「漫画現象」と言われる)によると、日本文化か社会の包容力が分かり、日本に対する認識を改めらせる。私にとって漫画現象とは日本社会を見直す起点である。

漫画 + 大人 = オカシイ?

2. ディスカッション

ディスカッション報告書：

今回私とディスカッションした相手は韓国からの趙洪済さんだ。偶然に私の苗字の発音が日本語で同じだ。私たちは「漫画」について激しく討論した。

KC: チョウコウサイさん

CC: チョウか(さん)

cc: 趙さんは漫画に対して何のイメージを持ちますか？

kc: 出版物のある種類です。子供向けの本ですけれども、成人たちも読むのは悪くないと思います。

cc: 趙さんは幼い頃に漫画も読みましたか？

kc: 沢山経験があります。

cc: あの時に漫画についてどんな感じですか？

kc: 漫画を読んで、太したことがないです。ただリラックスです。読んでいる時だけ、楽しく休ませます。でも、読み終わるとすぐ忘れてしまいます。その点で、殆ど映画に似ています。

cc: 今まで漫画からどんな影響を受けましたか？

kc: 特別な影響はありません。

cc: 日本の流行っている漫画現象に対してどう思いますか？

kc: いいと思います。

cc: その理由はなんですか？

kc: 日本の漫画(アニメ)は産業として素晴らしいことだと思います。漫画の関連する内容が広いです。

cc: 日本で大人たちは漫画を読むことには理解できる人もいるし、出来ないの人もいます。趙さんの考えはなんですか？

kc: 始めて知っているのはやはり納得できなかったです。でも、漫画は日本文化の一部だから、理解したいです。そして、今もう理解できます。漫画に関する善し悪しには中間の立場を持ちます。張さんは漫画についてのレポートを書いた理由(動機)は何ですか？

cc: うん、書きの動機といたらやっぱり日本で漫画が流行る原因を知りたいです。日本で大人たち(特にサラリーマン及び年上)は漫画を読む現象に不思議だと思うわけだ。日本社会はその現象に現れた包容力にもっと想像できないです。それらは日本社会の特徴ではないでしょうか。

kc: その特徴は日本人の意識に関係あるかもしれません。そこで、日本の歴史にも関係あるはずで

cc: 趙さんの言ったことが間違いはないですが、やはり漫画現象の後ろには日本国民の意識が役立ってあります。その意識か包容力はほかの方面にも現われています。例えば、日本語における大量の外来語及び輸入文化の収入の方は日本社会が驚かせた包容力(多分、開放性と言えるかもしれません)が見られます。伝統に対するのは日本でうまく認められると言う点で、同国の特徴だと思います。

まとめ:

漫画が日本で流行っている現象に関する分析を通じて、日本社会の包容力の働きという結論が出てきました。だが、ディスカッションの相手——趙さんに「日本国民の意識」のアイデアは新しいポイントを示してくれました。「包容力」と「意識」の同一性または相違性はこれからの考えの重点です。けれども、漫画現象から見ると日本社会である特殊なところという点でディスカッションしたうちに異議が出ませんでした。

第二回ディスカッション:

今回のディスカッションは新しい相手(二人の女の子)と討論しました。中国の黄さんと韓国の伊さんです。彼女らに新しいアイデアをもらいました。

黄さん:張さんは日本の漫画現象に対してどう考えますか? 可笑しいですか?

私:そうですね。まあ、以前サラリーマンたちは漫画を読むことには不思議だと思いました。なぜなら、漫画は子供向けの読み物です。サラリーマンは大人ですから、まだ漫画など読むのは相応しくないじゃないです。

黄さん:けれども、日本の漫画は子供むけだけではない、大人に向けている漫画もあります。内容も広い。

私:それにしても、大人は漫画を読むのは何となくよくないと思います。漫画で知識を得られる情報量が少ないじゃないか? 本格の本より

黄さん:違います。漫画の読んだことがありますか?

私:あります。

黄さん:どんな漫画を読みました?

私:まるで一般的なものですが、アニメのような…

黄さん:漫画の作用は重要な一つがリラックスです。日本人は、特にサラリーマンの生活は忙しく、つらいです。それでは、リラックスために漫画を読みます。それはいいじゃないですか。

私:でも、中国と韓国ではそういうことがあったら、可笑しいと思われるわけです。それは日本の特徴ではないでしょうか。

黄さん:日本では大人たちは漫画を読むのはただ解消するために、知識をもらうためじゃない。電車の中で漫画なんか読むのに…

私:大人は漫画を読むのを認められるのは日本社会である包容力を証明できますか。

黄さん:漫画においてそう言えます。そして、この現象も日本の歴史及び漫画の歴史と関係ありません。

まとめ:

黄さんとのディスカッションには私は負けようです。よく考えた後、私は「日本の大人は漫画を読

むのは社会に認められる特徴」を話しますが、黄さんは「大人は漫画を読むべきだか否か」の問題をめぐってしゃべったのが分かりました。^-^

次の相手は韓国の伊さんです。

私:伊さん、こんにちは。あなたは日本の漫画現象についてどう思いますか？

伊さん:(まだこういう問題が考えていないみたいなあ。^-^)地下鉄、電車を乗りながら漫画を読むのとか、コンビニに立ちながら漫画を読むのとか、気が楽になるから。ドラマと映画が同じようです。趣味として、気が楽になれます。

私:でも、韓国でたぶん大人が漫画を読むと、非難されますか。

伊さん:個人によって、べつべつの意見があるけど、全体的から見ると、おかしいと思われま

私:日本で大人も漫画を読むということは認められるのは日本社会のある包容力が存在だと思

伊さん:たべん、ある角度から言えば、包容力との関係がありますかも。

まとめ:

以上の三名の相手と相談しまして、本当に楽しかったです。皆には私の「漫画現象から見た日本社会の包容力」並びにそれも日本の特徴の一点であるという意見に対して賛成してもらいました。

3、まとめ

「私にとって漫画現象とは日本社会を見直す起点である」というテーマをめぐって、三名の相手とディスカッションをしました。日本で大人が漫画を読むのは認められること、即ち漫画現象から見ると、日本社会は他の国に異なったある特徴を分かりました。勿論、その特徴は日本社会の包容力に反映されています。私にとってそれは日本社会を見直す起点です。

4、結論

三名の相手とのディスカッションを通じて、最初の考えも少しずつ変わってきた。それはディスカッションの働きではないだろうか。そうして、文章の中心も段々明らかになってきた。始め「漫画現象」のことは日本社会で生きているのに不思議だと思った。だが、授業の討論につれて、他人から様々な異なった考えを頂いて、大きく助けてもらった。

つまり、「包容力」という単語が本文のキーワードで、何回繰り返して出た。「漫画現象」から見ると、日本社会が他国よりもっと強い包容力を含むのであると分かってきた。それは几帳面な日本社会

に対して、面白くではないか。(この点に見れば、日本の大人が幸福だといえるだろう)

けれども、今の私は日本社会の色々な方面が全部見られるわけがない。したがって、今回の討論をきっかけとして、これからの留学生活に日本社会をもっと知ろうと思う。

5、終り

そろそろ夏休みがやって来ます。それで、総合授業も終りに近づきます。私も皆のように楽しみにしています。(@_@)

実は、私の作文がうまく行けると言えません。今まで、見返せれば、「私にとって毎週の金曜日はなんだろう」のテーマを選ぶわけです。大変体験をするものです。

さて、グループの皆様はお疲れ様です。特に、リーダーの牛窪さんに「どうも有り難う御座います」といいたいです。今学期、皆さんと一緒に授業するのは私にとって珍しい記憶である。

インターネットと私

チョウ ホン ジェ

1. 動機

私がインターネットを使い始めたのは高校1年生の時だから、もう10年目インターネットを使用している。始めインターネットをしたときは最近みたいに高層線がなかったのが皆は電話線を利用したモデムを使ったためインターネットの速度はとても遅くて不便であった。しかし、インターネットは不思議であった。一度も顔を見てない人々と話をしたり、友達になったり、探しにくい音楽や映画などたくさんの資料をインターネットでは簡単に探すことができた。Eメールというものはとてもすばらしいものであった。切手代や手紙代もいらなかったし手で文字を書く労働もいらなかったし、何よりもメールを送ったら相手に即時到着するのが一番大きい魅力であった。そのように不思議なインターネットに私自身がはまされたのは当然であった。その時はインターネットを使いすぎていつも家の電話料金がものすごく出て毎月母に叱られた記憶がある。高校2年生の時は大学入学受験の準備のため暫くインターネットをやめることにした。大学1年生の時は友達と遊びに忙しくてインターネットをする時間がなかった。大学2年生になってまたインターネットをし始めてまたインターネットにはまってしまった。大学3年生の時はADSLという高速インターネットサービスが出て前より約100倍も早い速度でインターネットを楽しむことができた。私みたいにインターネットをたくさん使う人にはとても良いことであった。一ヶ月間使用料も高くなくて、電話代もかからなかったし、全てが使い放題であった。その時は何日も寝なくてインターネットをしたのは当然であったし、インターネットゲームをするため1ヶ月間外に出なくて家でインターネットだけしながら夏休みを過ごした時もある。

インターネットですることはいろいろだ。Eメール、チャット、ゲーム、音楽や映画鑑賞、新聞や雑誌を読むこと、テレビ番組を見ること、ラジオを聴くことなどいろいろである。私がインターネットをすることについては長所と欠点がある。長所はインターネットをし始めてもっと多くの世界を知ることができたし、もっと大勢の人々を知ることができた。もちろん、別の人より早くて多くの情報を受け取れることができたのも長所である。しかし、欠点ほうが長所よりもっと多い。欠点ではインターネットにはまってからたばこを前より何倍もすうようになってしまったことと、カンコーヒもたくさん飲むようになった。そして、一日中動かなくてパソコンの前に座ってばかりで視力も悪くなったし体の調子も悪くなった。インターネットを長い時間した後の日はいつも肩がこって一日中ストレスを受けて疲れを感じた。そのため、この2年の間体重が15キロも増えた。体が重く

なったから外で活動するのも面倒くさくなった。怠慢な人間になってしまった。人間が現実の世界の生活よりサイバー空間の生活にもっと満足するようになった。この問題は、もちろん、私自身のせいでもある。自分が自分の生活のコントロールもよくできなかった。しかし、インターネットは私以外に多くの人々にとっても悪い影響をあげている。以前、新聞である精神医学者がインターネット中毒も精神病の一つだと言った記事を読んだことがある。実際韓国では若者たちが何日間ご飯も食べなくてインターネットカフェでインターネットゲームだけしてばかり、その場所で即死した事件もあった。インターネット上でいろいろな物の商取引でも詐欺犯罪が社会問題になっている。また、個人情報の流出問題もインターネットが登場した前の時代よりひどくなった。私も知らなくて始めて見た会社からインターネットのメールや普通の郵便で毎日ものすごく広告紙をもらっている。とても人にめいわくなことだ。

日本にきて大分良くなった。体重も5キロも減った。たばこは今も吸っているけどコーヒーは大分減らした。一日2個以上はほとんど飲まない。韓国にいた時は一日10個くらい飲んだ時もたくさんあった。インターネットも韓国の新聞を読む時や韓国のテレビ番組を見る時や韓国にいる友達とチャットする時以外はほとんど使わない。しかし、週末何の約束もなく一日中ずうっと家でのんびりしている時はまたインターネットにはまってしまう。

日本は韓国よりパソコンのインターネットがあまり流行っていないためか、インターネットに関する問題は韓国より起きていない。インターネットをしながら即死した記事は一回も見えていない。しかし、日本でももう少し時間がすぎてインターネットをする人が増えたらいろいろな社会問題が起きると思う。皆さんはインターネットをしながら悪い影響をもらったことはないですか。インターネットは私にとって美味しいチーズをおいた罠みたいな存在である。

2. Discussion

張 柯さんとヨンプラパット パッタリンさんとディスカッションをしました。長いディスカッションの内容のなかで一番大事だったと思った内容の整理して書いてみました。

ディスカッション1(インターネットの中毒性、自分自身の問題)

趙 : チョウカさん、こんにちわ。

張 : こんにちは。

趙 : 私にとってインターネットと言うものは悪いもの物です。私に悪い影響をくれました。私はインターネットを家で使い始めた時からたばこもたくさんすうようになったし、コーヒーもたくさん飲むようになったし、自分の健康をこわしました。また、

体重もインターネットを始めてから10キロも増えました。

張 : なぜそれがインターネットのためですか？

趙 : やはり、インターネットでゲームをしたり映画を見たりして集中していたらパソコンの前に座っているのは5時間以上は基本です。それで、外にも出れなくなりますし、何よりも自分の体を動かさないから問題になったと思います。約5年間はインターネットとはなれない生活をしていました。

張 : それはインターネットのせいではないと思います。それは趙さん自身の問題だったと思います。結局、趙さんが自分の時間や心を良くコントロールできなかったからだと思います。インターネットは趙さんの悪い結果についてただの言い訳だと思います。私もインターネットをしていますけど趙さんみたいな問題はあまりないです。

趙 : もちろん、僕自身も良く知っています。しかし、私は僕自身が気が弱くなってインターネットにはまってしまった原因を考えてみました。いろいろな原因を考えてみましたが、その一つはインターネットと言うものは中毒性がとても強いものなのです。その理由は面白いからです。とても、面白いからです。ものすごい量の情報やゲーム、音楽、映画やいろいろな人とのチャットは人間の好奇心を止まらないでひっぱっているし、その量も無限だからなのです。

張 : 結局それも、その誘惑から逃げられなかった趙さん自身の問題じゃないですか。

趙 : いえ、社会的な問題もあると思います。社会の不陰気です。韓国は現在インターネット産業がとても発達しています。今は日本のADSLより100倍も早いVDSLという高速線を皆は家で使っています。また、インターネットCAFÉもものすごく多いです。ソウルの場合は100メートル距離でインターネットCAFÉをさがせるほど多いです。多くの方はインターネットでショッピングをしているし、買い物も最近ではインターネットをしています。数えられないほどたくさんのサービスやインターネット上の遊びを提供する企業も増えています。たぶん、そのような環境のなかにいたから僕自身も自然的にインターネットにはまるようになったと思います。それで、日本にいる現在は韓国にいた時とはまったく違う生活をしています。インターネットをほとんどしていないためか、体重も5キロ減りました。

張 : いま、趙さんが言ったとうりだと、韓国では本当に大変な社会問題が起きているべきだと思いますけど。。。

趙 : はい、そうです。今、韓国ではインターネットに関したたくさんの社会問題が起きています。韓国の若者たちの中でインターネットをやりすぎて死亡した事件もけっこうありました。その原因は今忘れたんですけど、インターネットゲームを二日間ご飯も食べなくつづけて瞬間心臓が止まってしまったんです。最近はそのような事件はなくなりましたが、2年前は大きい社会問題でした。また、何よりも、個人情報が出されるのが大変大きい問題ですね。チョウカさんはインターネットのあるWEB SITEに登録したことがありますか？

張 : はい、HOTMAILに登録しました。

趙 : そうですね。。。私はインターネット上でいろんなSITEに登録しました。ゲームをするためにも、映画を見るためにも、Eメールを使うためです。その結果、どのように僕が住んでいるところを知ったか、はじめて見た会社からたくさんの広告ちらしが来ているのです。とても気分が悪いことですね。僕が知らない誰かが僕の情報を知っているということもこわい事ですね。インターネットに関してもう一つの大きい問題は詐欺犯罪です。最近、インターネット上でたくさんの商取引がおこなわれています。そこで、お金をもらったけど商品を送らないとかの詐欺犯罪が起きているんです。あとは、アダルトサイトとかも子供たちが簡単に見ることができて、結構問題ですね。インターネットは良い点より悪い点のほうが多いだと思います。

張 : そしたら、インターネットに関してその良い点だけ使えばいいんじゃないですか。インターネットの登場で世界は変わりました。世界はもっと狭くなりました。インターネットのおかげで東京からニューヨークまでメッセージは1分以内で到着するようになりました。インターネットのため電話代もとても安くなりました。

趙 : もちろん、インターネットの登場で世界は変わりました。とても便利になったことが少しあります。まあ。。。少しだけと大きい変化でした。しかし、悪くなったことがもっと多いと思いますし。その悪さもとても大きいし、深いと思います。インターネットはずうっと発展すると思います。それについてインターネットからの悪い影響を保護する対策もとても必要だと思います。

趙 : 今日、とてもありがとうございました。

張 : ありがとうございました。

Comments

インターネットに関して起きたこの問題全ては私自分自身の問題だと張さんは話した。私もその意見に賛成する。しかし、私の意見ではインターネットと言う物には中毒性があると思う。それがインターネットの問題点だと思う。一旦、どういう物でも中毒性があると言うのはマイナス点（悪い点）を持っていると思う。麻薬やタバコ、お酒は中毒性を持っている。しかし、麻薬は手に入れるのが難しい。また、タバコとお酒は子供の手に入れるのが難しい。全てが体に悪いものである。インターネットの場合は男女老小を問わずに誰でも簡単に手に入れて使うことができる。それでインターネットは毎日発展しています。この場合何とか政府からの専門家からの対策が緊急に必要だと思います。

ディスカッション2（世の中のインターネットの問題）

趙 : パッターリンさんこんにちわ。

パッターリン : こんにちは。

趙さんのレポートを良く見ました。私は今趙さんのインターネットにたいした意見について中立的な位置にいます。私もインターネットが良い点も持っているが、悪い点も持っているからと思うからです。良い点はEメールなどの便利さです。Eメールのおかげで私は毎日タイの両親と連絡をすることができます。それも、1円もかからず、無料です。そして、学校の宿題をする時もインターネットはとても便利です。タイにいる時も学校の宿題をする時、しょっちゅうインターネットを利用しました。すぐ情報を探せる利点がありました。しかし、インターネットについて悪い点は趙さんのケースとは違いますが、一番大きいな問題はPORN SITEだと思います。子供たちや未成年者たちはすぐ、簡単にインターネットでPORN SITEにはいることができます。それは、その人の成長に関してとても悪い影響ですし、社会的にも問題になる可能性が大きいです。

趙 : パッターリンさんと同じ考えです。人々は技術の発達だけ考えました。これはいつもあることです。その発達した技術に悪い影響がある、さらに、その悪い影響から人々を保護する対策はまったく考えていません。

パッターリン : そうです。しかし、趙さんの問題は自分自身にも問題があったと思います。趙さんPORN SITEでもなく、なんか変なもので悪い影響を受けたのではなく、ただインターネットを長い時間やりすぎで問題が起きたのです。それはインターネットより趙さんのマインドコントロールの問題がもっと大きかったと思います。そうじゃないですか？

趙 : はい。しかし、私は、私が受けた悪い影響もさつきからずっと話したインターネットからの悪い影響の中で一つだと思うからです。しかし、100%インターネットのためだとはいえませんね。。私自身の責任も感じますから。でも、いまは大丈夫です。週末は時々インターネットを長い時間使いますが。ほとんどしませんね。体重も、昨年日本に来ましたが5キロくらいやせました。(ハハハ！)

趙 : 今日、とてもありがとうございました。私のレポートにパッターリンさんの意見がとても参考になりました。ありがとうございます。

パッターリン : ありがとうございました。

Comments

インターネットは誰でも簡単に使うことができるから問題だ。特に子供たちに問題だ。インターネットの中にはものすごい量の情報がある。その中には良い情報もあるが悪い情報も良い情報くらいたくさんある。暴力性や淫乱性を持っている情報を最近子供や未成年者は簡単に受け取ることができる。これはインターネットの中毒性よりもっと高い危険性を持っていると思う。ネットワーク時代と呼ばれる現在の時代をすごしている若者たちの未

来が心配になる。

3. 結論

最近では情報の時代、またはネットワーク時代と呼ばれている。インターネット（パソコン用・携帯電話用）がなければこの社会は動けなくなってしまう。インターネットと言う物は人々の時間やお金を節約してくれたし、世界を狭く狭めてくれた。だがインターネットが100%良い物だとは思わない。インターネットを悪用している人、そこから悪影響を受けている人が多いし、ずうっと増えているのが問題なのだ。私はこのレポートを書き始めた時から終わるまでなぜ自分自身がインターネットに体が悪くなるほどはまっていたのかを考えた。今も考えている。そして、インターネットに私自身が時間やお金を浪費したことについてとても後悔している。今回のレポートの切っ掛けでもう一回反省したし、今からでも気おつけようと確信した。インターネット中毒から完全ににげることができるかはまだ心配なのだけど。私個人の問題以外のたくさんの人々が受けているPORNO、詐欺、個人情報流出などの悪いインターネット関係の問題も専門家たちの遮断プログラム開発、協力的な法的対応措置などの急な対策が必ず必要だ。最近の情報時代に個人や国が明るい未来を迎えるために逃げられないものは情報の海だと思うし、それを十分に満足させてくれるものは良い航海者だと思う。航海者が正しく引導しなかったら海で迷ってしまうようにインターネットを正しく使用しない時は情報化時代で迷ってしまう。インターネットに対して人々の意識涵養、専門家を通じた協力的な法的措置と制度改善だけが人々が情報の海を正しく後悔できる道だと思う。

4. 終わりに

とても早く過ぎた1学期だったと思う。動機レポートを書く時が一番大変だったし、難しかったと思う。あることについて論理的に説明することが今まであまりなかったのが、動機レポートを説明する時、クラスの皆が理解していない表情を見た時は少し残念だった。これは、ディスカッションをする時も同じであった。しかし、皆は熱情的にクラスへ参加してくれたし、大学院生たちも毎度助けてくれてとても楽しくて、有益な時間であった。今回のレポートを通じてもっと自分が論理的に考えて表現できるようになったと思う。また、日本語の実力も向上できたと思う。皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

まやかし情報

バタ・タマーシュ

動機レポート:

皆さんはテレビやラジオやインターネットなどをよく見たり聞いたりすると思う。たくさんの情報を得て、色々判断する。もちろん情報ができるだけあったほうがいいと思うが、出所によって、矛盾するような内容もあって、どちらかがうそでまやかし情報であろう。そんな情報にごまかされたくないが、情報があればあるほど事実を納得するまで大変で時間がかかる。

子供の時テレビ放送チャンネルは二つしかなかった。それを見て世界で何が起こったかと知っていた。他にはあまり情報の出所がなく、意見や観点を比べることはいうまでもなく、聞いたニュースを疑問に思うこともできなかった。その時、もちろんインターネットもまだ未来の夢だけだった。最近ラジオやテレビ放送チャンネルがたくさんになって、世界のニュースも一つのチャンネルだけで判断しなくてもよく、いくつかの反対の意見を聞く。矛盾するような意見があれば、どちらがまやかし情報を伝えていることもある。情報の発達から、どちらが事実を伝えているかと分かるまで読み手や聞き手がいろいろ調べられるので、ある程度客観的な判断ができる。情報がたくさんあって、よく考えてから決める方法が正しいと思う。しかし、場合によって時間があまりなく、まだまだ納得しないのに決めなければならない時もある。その例の一つは戦争である。戦争ほど決定するのに迷うことはないだろう。情報はいくらあっても、それで十分に理解した気もしないし、まやかし情報で、人間の命について決めてほしくない。

数年前にユーゴに戦争が始まって、隣の国だからみんなとても関心を持っていた。私はその時ユーロニュースと言うチャンネルしか見なくて、解説されたことを事実のように受け取った。職場で新入社員のユーゴの女の子がいて、戦争の話をし始めたら、私は本当のことが何も分かっていないと初めて気がついた。テレビで見るのは、～の番組 だと思うようになった。人を感動させて次のコマーシャルまでテレビの前に座らせるように考えてあるものだ。事実とは直接関係ない番組も多いのでやはりできるだけ色々なチャンネルを見てから自分の意見をはっきりしたほうがいい。最近、もうテレビも見なくて、興味があるテーマをインターネットで調べる。そして情報の出所を意識しながら、記事を読む。その情報を掲載するところの価値感覚は、かならず情報に含まれているからである。

もう一つ例は ハンガリーがEUに加盟することである。このごろEUについてたくさん考えたり、友達や家族とEUのことを話したりする。当然、皆はそれぞれの意見があって、よく議論する。情報の出所がそれぞれ違って、完全に反対の結論が出ることもある。情報はたくさんあるので、納得するまで大変なのに、EU加盟の是非を問う国民投票まで数週間しかなかった。それだから 国民30%しか納得できなく投票に参加しなかっただろう。情報がいくらあっても、それを客観的に納得する時間がなければ、事実だと信じることもできないので、ごまかされる恐れがある。しかし、まやかし情報で物事を決めるのはいやだと思う。

ディスカッション1.

相手： ユン・クッキー「く」
バタ・タマーシュ「ト」

事実を判断

く： タマーシュさんがごまかし情報をタイトルにしたきっかけはEUだったんでしょう？

ト： そうですね。でも十年前から、あのユーゴの戦争があったときから、テレビなどをちょっと怪しいという気持ちで見ると、あれからの新しいニュースを見るときまやかし情報だとよく腹が立つ。最近、情報でごまかされると感じたのはたまたまEUの話だったので、EUがレポートのきっかけになったわけ。でもその前も、イラク戦争について有名な

テレビレポーターが話していたことだが、戦争の準備は半分ぐらいマスコミで行った。どうやって世界に戦争を売るか、どうやって世界の人々を納得させるかのほうが大事なことだったらしい。

く： それじゃ、タマーシュさんが考えるごまかし情報と事実をどうやって判断する？

ト： 事実を判断する必要があるのは、二つの場合があると思う。その一つは、自分が何かを決めるとき。たとえばどこに留学するとか、どこに旅行するなどを決めるとき。結局どうやって事実を判断するかというよりも、事実をできるだけ分かりたいことがポイントかなあ。

そのほかに、事実を判断する必要があるのは、友達とかと話しだけをして、自分の意見を言うとき。決める必要がなく友達と話すだけだったら、もっと簡単に意見をいえるし、簡単に結論もだす。

ところでクッキーさんは事実をどうやって判断しますか？

く： 自分の判断で。

ト： 自分の判断って？

く： そのバックグラウンドはだれが言うか・・・あと家族の影響も大きい。

今日の最初のテーマは、まやかし情報に対して事実を判断することであった。クッキーさんの話を聞いて思ったのは、同じニュースやマスコミの情報を見ても、その判断が人によって思った以上違う。私はとても関心を持って深刻に考える話題でも、他の人にとってどうでもいいことかもしれない。かえって他の人が気になることについて私はあまり考えないで、すぐ判断する。事実ということ定義するのは難しいし、どこまで深刻に考えるかにもよることである。

客観的な判断

- く： タマーシュさんがごまかし情報と事実とをこうやってわけて、事実を知りたいって言う、その理由について考えたことがありますか？
- ト： え？事実知りたくない人いる？ 確かに話題によって事実を知りたい程度が違う。政治だって、直接関係のない話が多いので、適当に理解してもいい。
- く： 政治のことが信じないですか？
- ト： うーん。たとえば、ワールドカップのときも韓国人もちょっとだまされたでしょう？ そのときのマスコミの影響がすごく強くて、サッカー以外のことがどうでもよかったみたいだったね。大統領の息子の話も誰も気にしなくなった・・・
- く： ワールドカップが行われる直前にその息子は逮捕されて、それを事実としてニュース流してもタイミングがよかったから、ワールドカップが行われるから、私たち国民の関心がワールドカップに向いているときにそれを流して・・・
- ト： だからどうでもいいと思ったでしょう？
- く： そうそう。キム大統領もそのときに謝って、皆さんの前で、許してくださいというだけで終わりだったの。それでその問題を解決したという感じになっちゃって。だからたぶんタマーシュさんはいうマスコミの影響は強かったと思う・・・
- 私はタマーシュさんのレポートを一番最初に読んだときに、きっかけがタマーシュさんはEUだと言ってたけど、私は韓国のことまた考えていて、韓国の今の大統領ね、一にいけたのはそのごまかし情報のおかげだと私は思っていて、それは面白いな～と私は思った。
- ト： そのときの事実を分かりたかったでしょう？
- く： まあ、自分的には事実だと思っていたのはあったから・・・
- ト： それは事実だとどうして分かったの？
- く： 父親の影響があったから・・・(笑)

やはり、まやかしの情報の意味が複雑だと感じる。クッキーさんの例を見ると、情報そのものだけではなく、判断する人の価値感覚や周りの人々の影響なども判断するとき大切だと思う。情報は事実かどうか分からなくても、その情報を判断する過程は面白いことである。その過程をもっと分かりたいと思っても、人をもっと知りたいと同じことになるような気もする。たとえばクッキーさんは何が事実だと信じる理由が私は分かりたいと思えば、クッキーさんの家族とか友達の話聞いて状況を想像するしかできないし、完全に理解することが無理かもしれない。まやかしの情報だと判断するとき、私も家族や友達の影響が強いだらう。彼らの影響を受けて、自分なりに判断したいが、本当に客観的に判断できると思わないようになった。事実と自分が考えてるものの両方がその判断に混ざってあるからだと思う。

まやかし情報の発見地も色々

- ト： 他にごまかされたという経験がありますか？テレビに限らず、たとえば商人とかに？
- ク： あ〜、ある。物を買ったりするでしょう？だから私は値段を比較しているんなところに行きたいんだけど、「ここはいちばん安いよ。ここはいちばん安くなかったら、私はあとで払うって」と言われて、簡単に選んだ経験とかがある。あと食品とかも、これが100%麦で作られたといっても、なかにはまたほかのいろんなものが入ってたりするから、そういうのはマスコミでは言ってくれないし、知らないし・・・現代人は食べ物にとっても敏感でしょう？ビタミンCとかどういう材料が使われてるとか、とても敏感だから、そういう真実的な面を使って宣伝とかをしようと思う。箱に無糖と書いても甘いので、何か砂糖のようなものが入ってるでしょう・・・

今日まやかし情報に関して政治とか食品などのいろいろな話題がでてきた。まやかす情報を捕らえようとしながら、自分も気がつかないところでごまかされる。政治のことを一生懸命考えながら買い物で失敗した経験が私もある。

ディスカッション2.

相手： ホン・ジッス「ホ」

情報の質

- ホ： 7時ごろに普通のニュースがあるんじゃないですか。
- そのニュースは事実だけを伝える番組だといえるけど、ニュースとかも他のチャンネルと競争する番組なので、悪いことばかりを見せる。だからニュースがあまり好きじゃない。
- でも60分ニュースという番組があって、ひとつのテーマを決めて、その60分の間にもっと詳細の説明とか裏の状況まで分析しようとするちょっと変わった番組だから好きだった。
- ト： それで事実をもっと分かると思ったんですか？
- ホ： そうそう。人に見せられないほど微妙なことまで、その番組が本当に何でもみせてしまった。
- ト： ええ。ハンガリーにも似ているような番組がありますね。
- ホ： 面白かったのは、もし他の国で同じような事件が起こったとしたら、それを見せて、それに比べて自分の国のことをもっと客観的に判断できたと感じた。
- だからこの番組がかなり好きだった。
- ト： その客観的な判断というと家族や友達の影響があったと思いますか？
- ホ： 大人になってから、たぶん自分で判断するようになったと思う。もし友達とかと相

談するとしても、あまり深いところまで話さないし、会話の流れのために話すだけだと思ふ。しかし判断するとき自分でもっと深く考える。その60分ニュースのような番組が好きだったのは たぶん私だけだったと思ふ。同じ時間に友達にとってもっと面白い番組がいろいろあったので。それから父と私の考え方が根本的に違うので政治などの話をめったにしない。

また違うような意見が出た。周りの影響にある程度左右されてもいいと思ふ人もいれば、むしろ自分の考え方を持って物事を一人で判断したいと思ふ人もいる。どちらもいい点と弱点があるだろう。他の人の意見を聞けば聞くほど、たぶん自分の意見も客観的になるが、最終的に物事を自分で判断しなければならないと思ふ。

それから特定のニュース番組だけを信じるというのは、どうしてだろう？たぶん自分の価値感覚にその番組のスタイルは近いし、自分が期待する水準とか質にも当てはまるかもしれない。情報の質は、以前述べた情報の出所によることだと思ふ。その情報を掲載する人たちの価値感覚とか水準は、情報に含めているから。

事実だと信じたら、必ずごまかされるのか？

ホ： 60分のニュースぐらいだけ事実だと私は信じていたのに、ある事件で本当はまやかし情報だと分かっていた。韓国には、歴史的な理由でまだ日本に対して否定的な考え方の人が多い。たとえば数年前まで、いろいろな日本の映画とか本とか音楽などのような文化のものが禁止されていた。だから私もあまり日本の文化のことが詳しくなかったのね。そのとき知らなかった日本のX-ジャパンというバンドがあって、それを妹の友達が本当に好きで、秘密のファンクラブにも参加したらしい。そして、60分ニュースの番組で、日本の音楽が禁止されているのに韓国でこの日本のバンドのために夢中になっている若者たちがいると見せて、ファンクラブをとてばかにしていた。

ト： 実際にそのファンクラブの若者たちは何をしていたと知っていますか？どうして60分ニュースが事実を見せると思わなかったのですか？

ホ： 実際にファンクラブがどんな活動したかと知らないけど、妹の話によると、そのテレビ番組を作った人たちはファンクラブを積極的に紹介したいとうそを言いながら妹の友人などをごまかした。

ト： 番組を作れるために、いろいろ必要ですね。

ホ： 妹の友人まで番組を見るとき、自分がおかしいと思ったぐらい、そしてどういう技術で映像したかと分からないぐらい、事実と番組が違っていた。その後、学校でも家族でもその友達はかなり困っていたらしい。

やはり似ている経験を誰しもするかもしれない。話題になることをどこまで深く考えるかにもよるが、事実だと信じた情報はうそだったと分かれば、やはり誰でも失望する。まやかし情報について考え始めたきっかけは、以上の例のように何ともニュースとかにごまかされて、後からだけ事実が分かったことである。

結論:

情報を得るプロセスの誤りとしたまやかし情報

まやかし情報についてのディスカッションが終わって、最初に疑問に思ったことの答えがいろいろでてきた。テレビを見たり、ラジオを聞いたり、インターネットで情報を調べたりすることが単純に見えるかもしれないが、実はとても複雑なプロセスであることが分かった。これからそのプロセスを意識しながら、情報を納得したいと思っている。

そのプロセスの出発点は、情報を得る目的である。つまり我々は何のために情報を気にするかということからすべてが始まる。その後、情報を理解するプロセスも目的によって完全に異なるのである。たとえば研究とかビジネスとか重大問題の決断「戦争、EU加盟」などのために情報がほしければ、より深く細かく、そして場合によって幅広くテーマを追求したいと感じるのは当たり前のことである。

逆に、「友達とおしゃべりするなどの」娯楽や一般知識などだけとして情報を得るとしたら、それほど深く考える必要がなく、まやかし情報でごまかされても、恥ずかしいと思うかもしれないが結果として困らないものである。そこでは情報を集める、分析する、表現する、伝達する、理解させる、また説得するといった様々な目的があり得る。

私は、特にまじめに物事を考えたいときとか、深刻な目的で情報を得たいとき、まやかし情報がいちばん気になる。それほど深く考えたくない情報の場合、プロセスがそこでは終わるだろうが、情報を納得できるまで分析したい時、聞き手の価値感覚が重点的になる。各人の才能や経験によって、物事を判断する自身があるかもしれない。しかし自分で考えるとともに、他の人と相談することも必要であろう。両方繰り返すにつれて、判断が本当に客観的になるのである。自身を持って、相談もせずに判断するやりかたのほうに誤りがちではないかと思う。それだから、これからできるだけ他の人と相談しながら、情報を理解したいと思っている。

終わりに:

近年のメディアの発達によって、私たちを取りまく情報環境は一変した。我々は、その情報環境の働きを理解する手法がまだまだ十分ではないだろう。私は情報環境についてもっと勉強したいと思っている。この勉強の最初の一步が皆さんと一緒にできたことが、とても楽しかった。どうもありがとうございました。

アルバイトについて

パッタリン ヨンプラパット

1. 動機
2. ディスカッション
 - アルバイトを始めたきっかけ
 - アルバイトと人間関係
 - アルバイトと自分の変化
3. 結論
4. 終わりに

1) 動機

アルバイトは日本で初めてやった。タイではアルバイトをしている人もいるけれども、日本と比べたら、まだ少ない。アルバイトをする人は大体大学生である。卒業した人は進学しなかったら、すぐに就職して、日本のフリーターのようにアルバイトだけする人はほとんどいない。大学生の間に人気があるアルバイトは家庭教師である。タイでは特にレストランやコンビニなどのアルバイトは時給がとても安いから、アルバイトをやってみようと思ったが、やらなかった。しかし、アルバイトをしてお金を貯めて、海外旅行できる日本人の大学生が多いと聞いた。

日本は物価がとても高く、特に東京は物価が世界で一番高い町と言われている。それに、タイと比べたら、3倍以上高く、またある食品が6、7倍も高いから、ちょっと住みにくいだろうと思った。日本に来る前、日本でアルバイトをしようと思っていたが、日本に来て、最初は家族からの仕送りと奨学金で生活して、アルバイトをしなくても大丈夫だと思った。それでも、住めば住むほど色々な所に遊びに行きたくなったし、せっかく日本に来て、もし勉強ばかりして旅行に行けなかったら、もったいないと思ったし、アルバイトをすることにした。

先輩に勧めてもらったタイレストランに行ってみた。お店では日本人もタイ人もいるから、懐かしいタイ語も話せるし、日本語も練習できるし、とても面白い。「失礼いたします。」や「お待たせいたしました。」という敬語の他に、時々お客さんから声をかけてもらったり、一緒に働いている日本人とも話す言葉やスラングを聞いたり使ってみたりできるし、日常会話らしい練習になった。私はホールでウェイトレスとして働いていながら、毎日面白いことも変なことも聞いたり、見えたりして、お客さんの色々な行動に気が付くように

なった。多くの日本人は注文する前に隣のテーブルをちょっと見て、何か美味しそうものがあつたら、同じに注文する。それに、カレーを食べる時に食べ方はタイ人と違い、日本人がスプーンだけ使うということである。お店で3時間位ずっと座わり、料理を食べたり電話をかけたり煙草を吸ったりして、最後そのまま寝てしまった変な人もたまにいる。若者のお客さんが来る時、今流行っている色々なファッションのスタイルが見える。面白いことを聞いたり見えたりしても、自分一人で知っていて誰にも面白さを伝えられなかったら、あまり面白くないと思う。

お店では私と同じくらいの日本人もタイ人もいて、知り合っている友達になった。仕事が終わった後、いつも一緒にご飯を食べながら、色々話す。話題は今流行っている曲やテレビ番組などで、注目されている日本のニュースもタイのニュースもある。時々冗談とゴシップの話について話し合う。お互いに経験を述べ、意見を交換してとても面白い。外でも一緒に食事したり遊んだりしたこともある。その上、時々コックさんから料理の作り方を教えてもらい、自分で作ってみると、まずいけれども、いい勉強になった。お店の人は皆優しくて、問題があつたら、時々相談に乗ってもらう。

最初アルバイトをすることにしたのはお金のためだが、それより今でもアルバイトをまだ続けているのはお店の人のお陰で仕事の雰囲気が好きなのだ。前は暇な時にもし友達に会えなかつたら、楽しいこともなかつたら、ちょっと寂しくなってしまった。しかし、アルバイトを始めて以来たくさんの人に会えて面白いこともあつたし、友達もできるし、寂しくなくなった。しかも、前は大学と寮の行き来だけだったが、アルバイトをして視野も広がった。アルバイトができたことは色々良い経験になったと分かって来た。アルバイトをすることはとても疲れて大変だが、とても楽しいので、疲れを忘れてしまう。またアルバイトをしている時には言葉や料理やファッションなどについて色々な面白い情報を得られるし、しゃべったり笑ったりできるし、気に入っている本を読んでいるようだ。自分にとってアルバイトとは女性雑誌である。

2) デイスカッション

相手は嵐のグループの藩楽さん、バナナさん、同じ出藍のグループのチョウ ホンジェさんである。3人ともアルバイトをしているから、アルバイトについて色々な意見と経験を聞かせて頂いた。

● アルバイトを始めたきっかけ

パッタリン：アルバイトを始めたきっかけは何ですか？

藩楽：上海ではアルバイトを応募したことがありますが、時間帯や給料などの条件がちょっとだめだったから、やらなかったです。その時、私はもう卒業して、日本に帰る時間を待っているうちに暇だし、時間をもったいないし、それに、経験が欲し

かったから、アルバイトをしてみたいと思いました。その時は経験が一番大切だと思ったが、今はやっぱりお金のことの方が考えています。

パッタリン：上海でアルバイトを探す時に日本に来たら、日本でもアルバイトをしようと思っていましたか？

藩楽：はい、そうです。だから、日本にくる前に上海で経験が欲しかったです。日本では日本語を使うけど、中国でも使う言葉の内容と仕事の内容が大体同じじゃないですか。その所でどんな話をするか、どんなやり方があるか、そういうことを経験したいですから。日本に来る前の準備みたいなものですね。ただ表現とか言葉の使い方とか知らないですけど、内容は言えるんじゃないですか。

パッタリン：そうですね。私の場合はタイで住んでいた時にアルバイトをしてみたかったけど、時給がとても安いし、必要もないし、しなくても大丈夫です。でも、日本に来る前、日本でやろうと思いました。なぜかと言うと、日本の生活は多分お金の問題があるだろうと思って、お金のことを考えました。日本に来てやっぱりアルバイトをしないといけないですね。バナナさんの場合はどうでしたか。

バナナ：最初からこの仕事の内容がすきです。大学に入ってから、アルバイトを初めてしました。その前はするかしないかあまり考えなかったです。大学に入って友達は大体アルバイトをして、家庭教師ですね。私もアルバイトをしてみたいけど、家庭教師が嫌いから、絶対しません。だけど、後は日本に留学したいから、やはりお金を貯めないと駄目かなと思って、アルバイトをすることにしました。

パッタリン：バナナさんの場合は多分友達とか周りの人がアルバイトをすることをよく見えたから、自分もしたくなったじゃないですか。

バナナ：それもそうですね。それに、その時、自分はかなり無口だから、他の人とコミュニケーションにとっても苦手だし、友達も少ないし、アルバイトをしたら、必ず他の人と話さなければならないですから、多分自分の性格がちょっと変わるだろう。それに、私の世界もちょっと広くなれると思います。

相手は二人いて、様々な意見を聞かせて頂いた。一人は時間を役に立つようにしたいとともに経験が欲しいから、アルバイトを始めた。もう一人は周りの人から影響を受けて最初してみたいと思ったが、仕事の内容が好きではないから、しなかった。だが、後はお金の理由でアルバイトをすることにして、自分が好きな仕事を探してアルバイトを始めた。私の場合はその時しないといけないと思って、お金のためアルバイトをすることにした。人によってアルバイトを始めたきっかけが色々あるけれど、必要のある状態でアルバイトを始める人と必要のない状態でアルバイトを始める人と分けられるということが分かった。必要のある状態はお金の問題がある場合や将来に役に立つ経験が欲しい場合などである。必要がない状態はただ経験が欲しいだけや時間をつぶしたいだけで始めて、そういう場合だ。しかし、アルバイトをしたい人はアルバイトができる訳ではない。私の場合は日本に

きて、三ヵ月後にアルバイトを探した。このレストランはあちらこちら色々な所にあつて、チェーン店のようだ。私は応募した時にちょうど新しい店を開いたばかりだから、すぐ仕事をさせて頂いた。二週間後、友達は同じ店に応募したが、一ヶ月待たせられた。お店から呼ばれた時にもう春休みになって、彼女はタイに帰るから、アルバイトができなくなってしまった。アルバイトを探す時にできるかどうかはチャンス、テンポ、意思、時間にも関係があると思う。

● アルバイトと人間関係

パッタリン：アルバイトを探す時に大体給料の方を考えましたよね。今はどうですか？

藩楽：その時はただお金が欲しいと思ったが、今は変りました。去年アルバイトを始めた時にお店の近くに住んでいたが、今は引っ越して、お店からちょっと遠いけど、お店の人も仕事も好きだから、このアルバイトを辞めるとか、そういう考えもなかったです。今はやっぱり人間関係も大切です。

バナナ：私の場合は最初からこの仕事の内容が好きだし、それに、やはり人間関係がすごくうまく行ったし、このアルバイトを続けたいです。でも、せっかく日本にいるから、やはりこちらでアルバイトをした方がいいかなと思います、いつも迷っています。

パッタリン：アルバイトをして、人間関係について変わったことがありますか？

藩楽：あまり変わらなかったです。前からずっと人間関係を大切にしています。この人との関係がうまく行けたかどうか、この人だったら、どういう風に付き合ったらいいか自分も考えます。自分の人間関係だけではなくて、他の人の人間関係も、例えばこの二人は特に仲が良いか良くないか見えるから、アルバイトから人間関係を勉強しているという感じです。それに、将来、社会人になって、仕事を探す時や働く時などにどこでも人間関係が大切ですね。

バナナ：私の場合は自分の価値を発見しました。職場で人間関係がうまくいける場合は誰が私の事を大切にしてくれるか分かってきました。うまくいかない場合は早く仕事を終わらせて帰りたいです。

パッタリン：もし一緒に働いている人と人間関係がうまくいけなかったら、どうしますか？

藩楽：いきなりアルバイトを辞めるほどないと思うけど、うまくいきたいため、一生懸命頑張るという気持ちも多分持っていないです。ちょっと頑張つて、まだ駄目だったら、他のアルバイトを探すかもしれない。

バナナ：前のアルバイトをした時に周りの人はいつも忙しそうに見えて、私とあまり話したくない感じで、とても冷たいです。その時、辞めたかったけど、お金のために仕方がないですね。でも、新しい仕事ができたら、辞めますよ。

パッタリン：どれが一番大切かというと、やっぱり職場での人々の関係が一番で、給料が二番ですね。

続けて話し合うと、自分と相手の考え方がかなり似ている感じがした。アルバイトを探す時にお金と仕事内容の方を考えたが、始めた後は職場での人々の関係が一番大切になった。その関係がうまくいかない場合は他の仕事を探して、できたら、辞める。私にとって、もし職場の雰囲気がとても悪くて耐えられなかったら、新しい仕事がまだできていなくても辞めると思う。窮屈な所は大丈夫だが、窮屈な気持ちは駄目と言えるかもしれない。アルバイトをする時には様々な人に合せて、一緒に働いている人やお客さんなどと接触するわけである。自分の人間関係だけではなく、他人の人間関係も見える。そういう風な人だったら、どうしたら仲良くできるかだんだん分かってきて、皆と仲良くできるように自分の行動を改善しながら、いい勉強になった。それに、お店で色々な人の性格や考え方などについて分かってきて、実際的にも接触できるから、もっと広い社会に出る前に準備することだと思う。人間関係の授業のようである。

● アルバイトと自分の変化

パッタリン：アルバイトを始めて以来自分は変わったことがありますか？性格とか考え方とか行動とか、何でもいいです。

チョウ：変わったことはあまりないです。アルバイトを始めました時、僕がしたくてしたじゃなくて、家から「お前、一度働いてみて、お金の大切さを感じてみて」と言われました。日本の色々な和食店で働いたことがありますし、大学生の時、韓国で家庭教師したことがありますし、でも、そのお金を貯めたとか、お金の価値に大切にすることを常識はないです。でも、もっと我慢できるようになりました。例えば、割り勘について、レジをする時、忙しいのに、日本人のお客さん 10 人位来て、別々お願いしますと言われて、本当にむかついたけど、何とか我慢しなくてははいけない。日本は韓国と文化や習慣などが違うから、最初は **culture shock** でした。割り勘の他に若者たちのことですね。中学生、高校生たちは無礼な人が多いですね。
(省略) 僕は多血質だから、あまり怒らないけど、怒る時はすぐ怒っちゃって、失礼した。でも、日本でアルバイトをして変わりました。そういうことを見ても聞いても我慢する。

パッタリン：私の場合は自分の変化について、アルバイトをして自分の力でお金を稼ぐことができ、自分を自慢に思ったし、もらう前に大変疲れたと分かっているから、お金の価値を大切にするようになった。(省略) 勉強しながらアルバイトをするのは大変だけど、自分をもっと責任を取れる。考え方も大人っぽくなったと思います。チョウさんは色々なアルバイトをしてみて、自分の好きな仕事を発見しましたか。

チョウ：まだです。でも、最初お寿司屋さんで働いて失敗して、次は違う仕事して、一つ一つ習うから、次の仕事をする時どういう仕事でも、同じことを失敗しないよう

にします。(省略) 人間関係も学べました。僕にとってアルバイトは僕の欠点を直してくれた素晴らしいものです。

(省略)

パッタリン：お客さんとしてレストランに行った時、お客さんが混んでいたら、料理がちょっと遅くても、大丈夫です。それに、そろそろ閉店時間になったら、お店の人がいろいろ片つけなきゃならないし、早く片つけて早く帰りたいという気持ちが分かっているから、ちょっと遠慮して急いで食べます。でも、アルバイトをしなかったら、多分時間を気にしないでゆっくり食べたり、しゃべったりします。

チョウ：パッタリンさんは今アルバイトをしているから、お客さんになった時はアルバイトをしている人たちがもっと理解できるようになりましたね。僕もそういうものを変えました。今お店へ食べに行ったら、食べた後にお皿を集めて、いつもテーブルをきれいに使います。

相手と私はアルバイトの影響からの自分の変化について、似ているところも違うところもある。似ているのは飲食店で働いている人たちの気持ちがもっと理解できるようになった。違うのはお金の価値のことである。相手は色々なところでアルバイトをした経験が多いが、お金の価値を大切にしない常識はない。しかし、私はアルバイトを始めて以来お金の価値を大切にようになった。多分相手はお金が欲しくない状態からアルバイトを始めたが、私はお金が欲しい状態でアルバイトを始めたからかもしれない。だが、これは人生にとってお金が一番大切という意味ではなく、ただお金の価値がよく分かるようになった。前はアルバイトをしたことがなかったから、いつも両親からお金をもらって、もらい易いから、払い易い。今お金を使う時によく考えて、役に立つように使う。それに、そのお金は自分の力を交換したものだから、お金の大切さを感じるとともに自分のことを自慢に思うようになった。

3) 結論

結局、アルバイトについてのディスカッションが最後まで進んだ。アルバイトを始めたきっかけについて、お金が欲しいなどの理由で自分がしてみたいというようにアルバイトを始めた人も、親にさせられたため、自分がしたくなくてもアルバイトを始めた人もいる。始めた時に給料と仕事の内容が一番大切だと言われたが、始めてから職場の雰囲気や同僚との関係の方が大切のようである。

最初、私は動機レポートに「私にとって、アルバイトとは女性雑誌である。」と書いた。なぜかという、アルバイトを始めて以来色々な情報、例えば言葉、料理、ファッションなどについて得たり、知ったりして面白かったということが一番大切だと思って、また、その情報は大体女性雑誌の内容に似ていると思ったからである。だが、ディスカッ

ョンを進めるとともに考えがだんだん変わってきた。よく考えると、お客さんの行動から見えた日本人の態度、コックさんに教えてもらった料理のこと、友達に聞いたファッションやゴシップなどは、全て人間関係を通じてもらった情報だということが分かってきた。人間関係がなかったら、色々面白い情報が得られないと思う。逆に、アルバイトのお陰で色々な情報を受け取って学びながら、日本語を練習したり、飲食店の仕事のやり方を学んだりできるばかりか、人間関係ももっと理解できるようになった。私にとって、アルバイトをしてから、色々学んだことの中には今人間関係が一番大切である。実は家で親子と兄弟の関係が学べ、学校で友人の関係が学べ、どこでも人間関係が学べる。しかし、アルバイトをすることは先輩と兄弟のような関係、友人の関係、上司と部下の関係などの様々な人間関係を同時に学ぶことである。アルバイトをする時に他人と仕事をしなければならぬので、仕事がうまくいけるために我慢と責任を持たないといけない。我慢ということはお客さんと同僚の嫌な行動や自分の疲れなどに対して我慢するということで、責任ということは自分の義理に対して学生としてもアルバイトターとしても責任を取らなければならないということだ。アルバイトをしてから、お金の価値を大切するようになって、もっと我慢できて、もっと責任を取られて、性格や考え方がすごし変わって良くなった。人間関係を学びながら、自分のことも改善できるから、自分にとって、アルバイトは人間関係の研修である。

4) 終わりに

この授業は会話も文章表現も読解も練習できて、総合らしい。今まで大変だった。毎週自分が良く考えて書いたものを繰り返して書き直したのはとても疲れた。特に新しい考えがなかった時、やめようとしたぐらい疲れた。だが、出藍グループの人はみんな優しく、いつも相談に乗ってもらって、いい意見をもらった。出藍の皆さん、よく一緒に頑張っていて、特にリーダーの牛窪さん、どうもありがとうございました。

私とざるうどん

フアン ソン ミョン

1. 動 機
2. ディスカッション
あ。ざるうどんは日本の伝統的な物か
イ。日本の食文化について感じたこと
ウ。私が日本の食文化を理解しようとする理由
3. 結 論
4. 終わりに

1. 動 機

日本人に会うと、日本の食べ物の中で好きなものか何かとよく聞かれる。ざるうどんと答えると、ちょっとおかしいように私を見つめる。もっとおいしい食べ物が多いのに特別ではないものを取り上げるのが受け止められないというわけだ。ひとつの国の食べ物の特性をよくあらわす食べ物は普通の人々が気軽に手ごろに食べるものがそれだと思う。韓国のギムチのようなものだろうね。私がざるうどんの意味を気づいたのは日本の食べ物に対して思い込んだよくない印象から始まった。

私は去年8月日本に来た。季節が季節なので本当に蒸し暑かった。それに、日本での部屋探しはなかなか易しくなかった。外国人に部屋を貸してくれなかりょうとする大家さんがたくさんいるから気に入る部屋を見つけても契約が結べない場合もあった。午前からもう疲れた体を休む同時に昼ご飯を食べに普通の食堂に入った。だが、ふだん日本人が食べる牛丼やカツ丼などの丼ぶり類は、その形の寂しさは言うまでもなく醤油のしょっぱい味ばかりだった。韓国では昼ご飯でも主な料理ひとつ以外に5、6種類のおかずがいっしょに出るのでご飯を食べるという気がします。一方日本では、たとえば、かつ丼を注文すれば、注文したカツどんと味噌汁しか出ない。おかずの数はともかくして、その味はただ醤油の味の強さのために豚かつの味そのものも殺してしまうような感じがした。その時日本人は何でおいしい味を醤油でめちやくちゃにするかと文句をいったことがある。

2週後、私は友たちと1泊2日間の日程で富士山に登りに行った。5ごうめから歩いて8ごうめまで上ったあと夜明けまでとまり、次の日頂上まで上る。だいたい富士山の7合目からは雲より高くてこの地点からは天気の様子にかまわずはっきり日の出を見ることができる。富士山から拝むご来光は言葉で表せないほどきれいだった。でも、富士山は火山の噴火で形成した山なので5合目の上からは森や樹木がない荒涼たる山だ

と言っても間違いないだろう。

富士山に行ってきた日本の食文化が、もっと進んで、日本はまるで富士山みたいだと思ふことになった。富士山は行く前に遠くから見ると美しい。成田空港に近づく飛行機の窓からも、箱根の湖畔からも。しかし、実際に富士山にあったとき、森が人間に与える豊かな感じはどこにでも見つからなかった。普通の人々が豊かさを感じながら手軽に食べるやすい料理はなくて、富士山のようにきれいに飾った食べ物が日本の食文化ではないかという思い込んだ。

富士山の旅行後、午前には早稲田大学の剣道部で稽古を終わってから昼ご飯のためにうどん屋へ行った。厚い体を冷やすためにざるうどんを注文した。何かよく知らず冷たいものの中でひとつ選んだ。うどんの麺はこしがあって歯ごたえがよかった。でもつゆにつけて食べたときその味が悪くなかったが、醤油のしょっぱさがまずかった。今度は食べないと思った。



だが、ある日、牛どんやの前を通るとき、外へ漂ってくる匂いを味わったとたんに、ついざるうどんの味が思いついた。次の日、ざるうどんを食べに行った。二回目のざるうどんは、さくつつけたつゆとこしがある麺を噛むと、口の中で混じる味によって、私に美味しいと感じさせるには充分だった。私がざるうどんを食べつけながら、ざるうどんは長い間発酵された醤油によって平凡な小麦粉を普通の人に豊かに食べさせる日本の伝統の食べ物だろうという点に気づくことになった。私がざるうどんを何度も食べなくてこのような結論に至ったことではない。いろいろな旅先やさまざまな食堂で食べながら感じたことだ。

日本の料理で基本的に使われるのが醤油だ。新鮮な惣菜をそのままゆでたりあげたりしてそれを醤油に漬けて食べることが普通の食べ方と見える。醤油は日本が持っている伝統的な味の素だと思う。そのような醤油と小麦粉との結合によって生まれた食べ物が

ざるうどんではないかと思う。

実に、やまやまの日本の食べ物の中でなんでざるうどんが好きになったかは私もよくわからない。でも、何かが好きになったのは、特別な言い訳や妥当な理由が要らないし、好きになろうとして好きになるのではないで、好きになっちゃうのだ。ざるうどんは日本人の麺作りわざと伝統的な醤油の味が組み合って生まれたし、気軽に手ごろに食べられる日本の特別な食べ物だと思う。

私にとってざるうどんは日本の食文化を理解するひとつの出発点になった。

2. ディスカッション

あ。ざるうどんは日本の伝統的な物か

私は嵐のジョージさんとざるうどんについて話し合った。時間をうまく分けて議論したらよかったのに、ジョージさんのテーマに時間の多くの部分をさいてくれるようになってしまった。でもジョージさんはざるうどんについて親しさを持っているようで、話の流れは滑らかな気がした。

ジョージ: ざるうどんはどのような食べ物ですか。

黄: ざるという言葉は竹で作られた容器という意味で、上の写真のような形をしています。ほとんどの場合、写真で見えるてんぷらを除けば普通のざるうどんになります。うどんの面をつゆにつけて食べますので、ほかの調味料なしで食べられるし、特別に作られたつゆがない場合は、ただ醤油につけて食べる時もあります。ジョージさんはそばは知っていますか。

ジョージ: はい、米国にいる時よくそばを食べたことがあります。そばを醤油みたいなソースに付けてよく食べました。おいしいです。日本に来てからときときそばを食べに行ったことがあるけど、ざるうどんを食べたことはないです。

黄: そうですよ。そばの代わりにうどんの麺を考えると、分かりやすいですね。日本ではうどんやそばの上に海苔を載せたのを「ざる」と呼んでいるけど、のりなしで麺だけ出るものは「もり」と呼びます。食べ方は同じだけど、海苔のあるかあるまいかによって違うようになります。値段はたいてい100円ぐらい差があります。

じょーじ: そうですか。そのことまではよく分からなかったのに。

黄: ジョージさんは台湾人だからしっているとおもいますが、にほんのざるうどんみたいな食べ物が中国にありますか。昔の韓国にはそのような麺の料理はなかったと思いますけど。

ジョージ: ざるうどん、私はざるそばしか食べたことがないけど、そのようにつゆに付けて食べるのは日本の特別な食べ方だと思います。台湾でも麺の料理はあるけど、そのように食べられるものは見つかったことはまだないんです。

黄:韓国にもざるうどんやざるそばがあるけど、それは日本から受け入れた食文化です。やっぱりうどんをつゆに付けて食べることは、いつから始まったかちゃんと調べて確かめることができないけど、日本の伝統的な食べもと食べ方と言っても大丈夫ですよ。

ジョージ:はい、そうと思います。うどんはどこから始まったか分からないけど、ざるうどんの食べ方は日本的だと思います。ざるうどんの形を見ると本当にシンプルです。簡単だけど結構おいしいです。そのつゆに麺が混じることだけだけおいしいです。

黄:私の考えではそのざるうどんが持っている簡単さが与える味は、まるでフランスのバケットパンからかすかに感じられる味とにていると思います。比喻がちょっと適切ではないですか。

ジョージ:でも、その平凡な食べ物から感じる味という観点から見ると、そうだと思いますよね。

黄:来週には日本の食文化について外国人としてどのように考えているかについて話し合いたいと思います。

ジョージさんはざるうどんそのものはよく知っていないけど、そばを通してざるうどんについてすぐ理解できた。ざるうどんは日本の伝統的な食べ物という点に私と同じ意見を表した。もちろん、ざるうどんが日本の代表的な食べ物といえないという点では二人とも討論しなかったけど共感した。

イ。日本の食文化について感じたこと

2回目のディスカッションはジョージさんと授業の参観人と一緒に3人でした。日本人がディスカッションに参加したおかげでもっと深いところまで考える機会になってよかったと思う。

黄:ジョージさんは日本の食べ物の中で好きな食べ物がありますか。

ジョージ:はい。私はそばのみならず、寿司とか刺身も好きです。すしとか刺身は値段が高いからよく食べられないけど。

黄:私も寿司と刺身が好きです。韓国にいるときは寿司よりよく刺身を楽しみました。韓国は刺身を皿に盛る形において日本と違います。日本は小さな皿に6, 7個を盛るが、韓国では魚1匹をそのままの形を生かしてさらに載せます。3, 4人が集まって食べられる形です。ジョージさんは日本の食べ物についてどのように感じましたか。

ジョージ:日常生活の中で食べる食べ物は豚カツみたいな揚げ物やカレーなどいろいろあると思います。弁当の中でもそのような揚げ物はたいてい1種類は入っています。でも、私が考える日本的な食べ物の特徴は生もので食べることはないかと思っています。

黄:私もそのよう傾向が強いと思います。テレビの料理番組を見ると惣菜の新鮮さを強調しながらそのままとか弱火をくわえて食べる場面をよく見ます。日本人が魚以外の肉

をたべたことは明治時代からだと言う事実を考えるとそのような習慣は理解できます。流通システムが完全に施されていなかった時代は新鮮な材料を食べるのは一部の人たち、上層階級に限られた特権ではないかと思います。それによって懐石料理という食文化が発達したかもしれません。いろいろなソースを使って作った料理ではないから上品な材料をきれいに飾る必要性が高まったことではないかと思います。

じょーじ：ざるうどんはきれいに飾った食べ物とは違うものですね。

黄：はい、そうです。ざるうどんはその形を見ると本当にシンプルです。そのシンプルさがざるうどんの魅力です。私は文化には庶民の文化と高級の文化がわけられて、お互いに影響を交わしながら変わっていくと思います。だから、文化にある原形があって、その原形にいろいろなものが付け加えていきます。いろいろな仕事で忙しい庶民が何かを飾って食べることができなからうと思います。麺を食べる食文化がいつ、どこから始まったかはよくわからないけど、ざるうどんは麺をゆでて醤油につけて食べるのは日本的な原形だと思います。醤油は日本の食べ物の基本的なベースとして麺文化の変化をもたらした主役といえます。韓国のゴチュジャンみたいなものです。

参：韓国のキムチはどうか。

黄：韓国のキムチは唐辛子が入ってくる以前の400年前は唐辛子を入れないで発酵したキムチを作って食べました。それを白キムチと呼ぶけど、今もよく食べます。普通のキムチとは違った特別な味があります。これも文化の変容といえますね。唐辛子という新しい材料の登場によって創造的な発展かできたのです。

参：麺の文化を受け入れてそれを簡単に食べられる方法を作ったことも文化の変容だといえるということでしょうね。日本的な文化の変容と韓国の文化の変容に何の差がありますか。

黄：私は専門的な研究をする人ではないのでよくわかりませんが、日本にきて観察しながら考えたことがあります。韓国人は受け入れたある文化について本場の原型が何かを探して、その本場のものを楽しもうとする一方、日本人は受け入れた文化に日本的なものを付け加えて、いわば和風を楽しもうとします。たとえば、パスタの料理があります。パスタはイタリアの料理というのは誰でも知っています。韓国でもパスタの韓国風のキムチパスタというものがありますけど、たいていの韓国人はそんな風のパスタをあまり食べたがっていないです。イタリア本場の味を楽しめるパスタを食べようとしています。これと違って、日本人は本場のパスタ料理より和風パスタをよく食べると見えます。パスタを売る店に行くと、本場のメニューより和風メニューがもっと多いとか、ほとんどのメニューが和風パスタです。ちょっと面白い違いだと思いました。

参：そんな差があるとは思ったことがないけど、和風パスタだけ売って有名なお店があるということを見ると日本人にはそのような面があるらしいですね。

黄：私はそのざるうどんにも麺料理の原型に和風的な変容の様子があると思います。ディスカッションのはじめに、生物をそのまま食べる特徴があると話しあったことがありま

す。もっと考えれば、ざるうどんは麵の刺身といえないでしょうか。私の考えです。

今回のディスカッションはざるうどんを重心として日本の食文化について話し合おうとしたが、ジョージさんも参観者も十分に考えたことがないので、私の考えをたくさんおぼるようになってしまって、何かが足りなさそうな気がした。でも、日本の食文化についていろいろな側面を探すようになって楽しい時間だった。

ウ。私が日本の食文化を理解しようとする理由

3回目のディスカッションは嵐のリーダーの橋本さんとやりました。ざるうどんや日本の食文化についてより授業の目当てそのものについてたくさん話し合うこととなってしまった。

橋：黄さんの書いたものをよく読みましたが、どうして日本の食文化に関心があるか、それが黄さんにとってどんな意味があるかよくわかりません。

黄：それは私が日本語を習うために日本に来てから、日本の文化について興味があるのは当たり前のことじゃないですか。どんな意味というのはどのようなことですか。

橋：具体的にたとえば、ダイエットをテーマにした人はダイエットを通してやせるようになったら、もっと自分に対して自身感を持って元気な生活をする事ができるからだといいました。

黄：そのようなことならもちろん私にもあります。私はただ学生じゃなくて公務員ですので、韓国政府の支援をもらって日本にきました。それで後で日本と関係がある仕事をする可能性があるから、日本についてよくわかるのが後の仕事に役立つと思います。これなら、いいですか。

橋：そのような事をよく表すのがいいです。

黄：そのような内容なら、すべての個人にあたりまえのようにあるものじゃないですか。自分に興味があるものは自分にとって自分に何か役立つところがあるからテーマで選んだという実用的な目当てがあると思います。

橋さんと話し合った後、授業の目的が、選んだテーマがテーマを選んだ人にとってどのような意味があるかを探す場合なら、それがその授業を受ける学生の目的にさずが当てはまるかどうかという気がした。別課の授業は学生の心のそこに何があるか、意識の状態を問い詰めた結果が何かを見つけることじゃなくて、学生にいろいろの言葉をわからせて表現できさせることだと思う。ざるうどんの場合、ざるうどんに関わるさまざまな意味を探して、それについて話し合っ、それを整理すれば、学生の日本語実力が伸びることができるようになるだろう。

3. 結 論

ざるうどんは特別な食べ物ではないが、ざるうどんというテーマによって日本の食文化について考える機会になったことはよかったと思う。うどんの漢字が「饅飩」というのを知っている人は少ないだろう。それは、うどんは「饅飩」じゃなくて、うどんであるからだ。そのほど日本的な物、普通の人々が気軽に楽しんで食べられるものだということを書きで明らかに証明する。日本のある都市が市名を平仮名で表記することを決めたのはたれにもわかりやすくしようとしたことと同じだ。

関東はそばを、関西はうどんを楽しむといわれる。これは、気候と土質によって、育てる穀物が違うようになったからだという。そばとうどんの中でどちらのほうが日本のかは大切な問題じゃない。なぜなら、二つともに醤油をベースにしたつゆにつけて食べるという食べ方が同じからだ。同じ食べ方は醤油という日本の味の素があるから可能になったと思う。

今、考えてみれば、私は日本の麺の文化をテーマに選びたかったかもしれない。麺を通じて日本の食文化、進んでは、日本の文化がわかりたかったかもしれない。私をはじめに受けた日本の食べ物に対する印象—ほぼ自己中心的な観念—は、私に好きになってしまったざるうどんによって考え直すようになった。

ざるうどんは特別な食べ物ではない。でも、そのざるうどんは、日本の麺の技術と伝統的な醤油の技術が組み合って普通の人々が気軽に食べられるもの以上に、ただの麺を作るのにもこだわった日本人の心や、醤油という日本人の味の素を簡単に結び合っただけの食文化の一つの原形という意味があると思う。

私にとって、ざるうどんは日本の食文化を理解するひとつの出発点になった。

4. 終わりに

私は、ある言語を習うのはその言語を使っている国と地域の文化を習うのと思う。日本語を習うのは日本の文化を習うというのだ。その文化には日本の生活方式、思考方式、言語習慣、食べ物など、日本に関するすべてのものが含まれていると思う。

外国人として、短い時間の間に、日本についてわかるようになったといえれば、どのくらいわかっているかと問い返す日本人の方がいるかもしれません。でも、日本語を習う私にとって、日本はなぜやどうしてみたいに聞く探索の対象ではなくて、どうなのか現象をそのまま見ようとする理解の対象だった。これは、できる限り、自分の偏見を離れるのが一番大切だけど、どれほどできたかはよくわからない。おもしろい旅だった。

ゴシップ (Gossip) について

ユンクッキー

— 目 次 —

- 動機のみとめ
- テーマ別に見た「ゴシップ」についての
 ディスカッションとそれに基づいた自分の意見
- ディスカッションの感想
- 結 論
- おわりに

◎ 動機

あなたはゴシップというと、まず、何が思い浮かびますか？悪いこと？面白いはなし？ゴシップの話題は私たちの日常生活でもよく述べられる。“大統領Aさんが誰かさんと浮気をした”とか“あの芸能人が誰かさんと別れたんだって”あるいは“友達Aさんが誰かさんにふられた”といったような男女関係によるゴシップは私たちの周りでよく聞く話である。他にもいろんな話題がゴシップの対象となりうるが、各ゴシップに対する人たちの反応も様々である。「えっ、知らなかったの？」「うそ～！！」「信じられない」「ひど～い」「初耳だわ」などなど。このようなゴシップは友達を含むいろんな人たちとの触れ合いの中でまたはマスコミを接する環境の中で自然に生まれる。

そうだ。私はこのゴシップ話を楽しんでいる。最近、韓国と離れて生活している私は向こうの芸能人話や新しい大統領を迎えた政治の話、私の周りの人たちの暮らしぶりなどなど、いろんな話から気が遠くなっていて、自分が韓国人でありながらも知らないことがだんだん多くなっている。久しぶりに友達と電話をして話しても知らないことばかりで、韓国の世間話しから離れていくような気がする。向こうの友達とチャットをしたり電話でおしゃべりをするときにもまず、「何か新鮮な話しない？芸能界はどんなの？大統領さんは元気？」というような質問をするようになった。結局、友達との間で話す話題のほとんどは有名人の私生活に関する話になったり、友達の噂話し、ときには政治家のゴシップになっている。話しの始まりは韓国の政治的な話とか芸能人話とかで韓国の世間話しから始まっても、どんどん話していくうちに辺りの人の話しにつながっていく。辺りの人というのは私の知っている友達の知り合いとか、友達と共有できる同級生の噂話しや何度か会ったことのある人の話しなどを対象として話し合う。

「人を通して人を見る」という話しがある。私は友達とのこのような話しを通してこれから会うこともありうる周りの人の話を聞くことでこれからの人間関係に参考している。ゴシップには裏話と言う意味とうわさ・プライバシーという意味があるが、これらは皆悪い話しばかりではない。人の話しを裏でするという共通点はあるがその内容としては様々である。芸能人の私生活・うわさ話し、知り合いの男関係・女関係・ある人の過ち、祝い話、悪口などなどがその内容である。そのような話は個人的な話しでその人としてはあまり知られたくない話しもあるので、気をつけて扱わなければならない。よく知らない人と他人のことを話すという行為自体が私としては危ないと感じ、あまり安心して話せない。それは噂は広がりやすいし、伝わるたびに変わっていく性格を持つからである。話し相手が誰かによって話しの深さや内容は変わると思う。それは相手との信頼関係とも関わる問題だからである。私がここでいうゴシップというのは私の信頼する友達からの他の人の話しだからこそ楽にきけて、楽に話すことができる。私がゴシップをするというのはどんな話しでも気楽に話せる信頼できる友達と言う存在がいることの大切さをも感じられることである。

私にとってゴシップとは韓国世間話から離れないようにする一つの手段であり、気を楽にしてくれる支えでもあり、人間関係の中で参考になれる教科書みたいなものでもあるのだ。

◎ デスカッション報告と私の意見

デスカッション相手： らんらん、タマーシュ、チョウカ

(Y : ユン, R : ランラン, T : タマーシュ, C : チョウさん)

ゴシップの定義

T : 「ゴシップの定義」は？何がゴシップと言えるでしょう？

Y : 辞書的な意味で言うと他人の噂話や悪口、無駄話、特に有名人の私生活に関する話題って書いてあったけど。私の生活の中ではおしゃべりする大事な要素ですね。

ゴシップする理由・きっかけ

T : 「ゴシップなんのため」にする？

楽しい？精神的に困ったことを解決できる？開放される？

Y : 今の生活では開放感もあると思うけど、「精神的に開放」されるというよりは、ゴシップを聞くことで「判断力もつく」と思う。それが事実か事実じゃないかは私は知らないから。でも聞いて「参考はする」ことができる。

T : ……(中略) じゃ、きっかけは二つかな。ひとつは自分が疑問に思うからそれを誰かに相談することによって確かめたい。それと自分の感じることを相手に伝えたい？よく言葉が見つからなくて説明できないけど、

Y: (中略) 少し話が長くなったり、それとつながるほかの話とも関連付けたり、もっと事実に近いものを聞きたいからそれを話題にしているのかも知れない。でも事実よりはただおしゃべりがしたいだけなのかも、その中で主にはなす素材となるものがゴシップが多い。

⇒ 私の生活の中でゴシップのお話しが始まるのは韓国の情報やニュース、私の周りの人たちの状況などが知りたいことから始まる。それがきっかけとなって、友達との電話やチャットを通したおしゃべりからゴシップへと話しがつながる。友達と話す瞬間は自分が今感じる大学院生としての義務感・束縛感から解放される瞬間で、短く与えられた時間なので、その時間が今の私にはとても大切なものである。韓国と離れていて芸能人や友達の話しなども聞きたくなるので、そういう話を続けていると周りの人たちや友達のゴシップにつながりがちである。話しの始まりは韓国の世間話しであるが、どんどんそれが辺りの人の話へと続く場合が多い。

ゴシップのいい点

R: 有名になれるってこと。人はその人の名前を記憶するよりは、そのひとの周りから聞こえてくる噂でその人を認識する場合が多いと思う。

Y: それもそうだけど、私の思ういい点は最近の話しかもっと近くなれるってことね。知らないと、世間から離れてて、世界でどんなことがおきているかわからない。わたしの立場としては韓国の世間話だけど・・・自分の悪口や噂とかも聞くと、気分は悪いかもしれないけど、聞くことによって自分の行動についてもう一度振り返ることができるじゃない。行動に間違えがあったとか反省の機会にもなれるし。

R: そうね。私の場合は他の人のことを聞くことで、自分の行動も注意した。

ゴシップの悪い点

Y: 私はこんなこと言われないようにしよう。見たいな感じ?じゃ、ゴシップの悪い点は?

R: 人に迷惑をかけながらまで、ゴシップを言うのは悪いね。自分のことだけでもいっぱいなのに。たまには、なんでこんなことを私に言うの?なふうに思う。

Y: そうだね。悪いのは裏で話すということかも。

⇒ ゴシップのいい点と悪い点について話した部分だが、私の思うゴシップのいい点とは人間関係の信頼性を高めることができることと、人間関係する中で反省したり、注意したりで、これからの活動に参考になれる教科書みたいな役割もするという。悪い点はゴシップの性格的な面から広がりやすいということ、また話すたびに変わる傾向があるということ、人間関係を一方では悪くする危険性もあるということ。ゴシップの性格からみた悪い点だったが、ゴシップをする行為自体は悪いと言えるのだろうか。(これは次のページにてでてる **道徳心を問うゴシップと二重的な気持ち** というタイトルのデスクッ

ションの中で問われる。)

ゴシップの性格とそれによってつくられる信頼感について

- T : (中略) 一緒にゴシップすると相手とよく友達になれるとか、いい雰囲気もできるんじゃないかな。そのゴシップの内容よりは人間関係と関係があるんじゃないかな。男女関係はとてもプライベートな話でしょう？そういうことを話すことで近くなれるとか。
- Y : そうね。「信頼関係もできる」ね。そうね。(中略) 日本でまだそういう経験ないけど、これから他の人とすると、信頼関係もできると思う。プライベートな話を聞かれると、その人は私を信じて言っているんだと思うから、(中略)
- C : 「ゴシップは悪いこと」だと思う？
- Y : 裏で話す人のはなしだから、その対象が芸能人であり、友達であり、知り合いであり、他人であり、直接その人の前で言うことじゃないから、その人にはなんか悪いと言う気持ちがあるかもね。でも「裏話しだからと言って悪い話ばかり」じゃないよ。
- C : でも、それは人の「プライバシー」でしょ？
- Y : でも、そんなプライバシーを話し合う相手との関係からすると、お互い話して聞くことで信頼関係を高めることができる。そういう面では「信頼感を高めていい」と思うけど。
- C : 自分にとってはわるくないけど、立場かえて考えてみるとそれは悪いこと。
ゴシップは芸能人だけじゃないから、友達とかクラスメートとかの話もするでしょ？
芸能人以外はよくない。「ゴシップの意味は悪い意味」だよ。
- Y : 本心、本音としては聞きたいとか話したいけど「自分のイメージが悪くなる」から避ける人もいると思う。私は韓国から離れてるから芸能人の話や友達の話、その周辺の知り合いの話とかが知りたいの。でも何か話している間にどんどんゴシップになっていく。電話やチャットでそんなまじめな話しをする人はあまりいないんじゃないかな。
- R : 私と親しい人のゴシップはよくわからないけど、あまり知らない人の話を聞くと、まあ、驚いたり、それにまた、よく分からない自分の意見とかの考えを付け加えたりもするね。その人に対してしている他の事とかも話題になったりする。噂って伝わる度にすこしずつ変わるから。
- Y : そうね。だからよく知らない人の話しはあまり信じがたいし、話すこともあまりしたくないね。
- ⇒ これまではゴシップの性格について話した部分である。悪いものでプライベートなことだけど、裏話であるゴシップが皆悪い話だとは限らない。人を通して人を学ぶという話しもあるように、それがよいことであれ悪いことであれ人の話しをするのは私たちの生活ではとても自然なことであるし、話しているうちには悪い話も聞くことが

できる。私はそれを聞いてこれからの人間関係に参考したり、「あの人は気をつけよう」、「その人には少し距離をおこう」と考える場合もある。

しかし、タマーシュさんのいうとおりそのようなプライバシー的なことをお互い話すことで話す相手との信頼関係を高めることができると思う。相手がそのような気をつけて話さなければならない人のことを私に話してくれるというのは私を信じているということになるからである。なぜなら、ゴシップの中には外に出されると危ない話もあるし、ランランさんの言うとおりに伝わるたびに変わるという傾向もあるので、とても気をつけて扱わなければならない話しである。でも、二人だけの話でという前提があればその二人はお互いを信じて話すことになるので、信頼感を高めることができる。私が主に韓国の親しい友達とゴシップ話をするというのもお互いを信じているからである。

道德心を問うゴシップと二重的な気持ち

T： 私は道德心は他の人の悪口は道德性はないと思うけど。

Y： いいことじゃないことを話すときには道德心を問えるんじゃないですかね。

知りたいけど、反面、こんなこと聞いてもいいのかなと思うときがある。

T： そのときの気持ちは二つあるでしょう。あれは道德的に悪いからやめようと言う気持ちと、友達ともっと話したい知りたいという気持ち。（中略）

T： その人をいじめようとするのでもないし、それは別に悪いことではないと思う（中略）

Y： 気をつけていうってことは悪い気持ちがあるからじゃないかな。少し調節しないと人間関係が複雑になるんじゃないの。

T： だから、ゴシップをするときに言われた人が本当に悪くなるんじゃないかと、言う人のほうが悪いってこと？それは道德性とは関係ないじゃない。

⇒ 話しをする相手と私との関係の中でゴシップと言う話しを話題とするにはさぞかし時間がかかることだと思う。もちろん芸能人の話しを除いてのことである。プライベートな話しを含むゴシップは伝わりやすいし、伝わるたびに変わるものであるからだ。自分があまりよく知らない人とのゴシップ話しをあえてしたくないというのは、話の話題になる人について話すことに悪いという気持ちがあるからである。もちろん聞くだけのことならあまり悩まず聞くようになる。でも自分がよく知らない人とあまり話さないわけは自分に責任を問われることがいやだからというのも一つの理由だし、よく知らない人と自分の知らない人のことを話すのは正しくないと思うからである。

だから今の私の生活の中で開放感を感じられる瞬間でもある友達とのお話しの中でのゴシップ話しはお互いを信じて話し合うことであるため気楽で面白く感じられるのである。友達を通して知り合いの話や周りの人たちの暮らしぶりを伺うことができるので私にはとても楽しい時間なのである。私が友達とするゴシップの話題は芸能人の

ゴシップや知り合いの最近の男関係や、その人が起こした事件、過ちなど中には個人的でありあまり知られたくないお話も含まれている。このような話は、聞いて参考にするためこれから会う可能性のある人たちの人間関係に必要な教科書みたいなものだと再び思った。また友達を信じるから楽に話せて、楽しいと言うのはこんな友達がいるという友達への感謝の気持ちや、友達の大切さをも感じることでできる時間でもあるからこそ、私の中で大きなエネルギーを感じる時間でもあるということに気づいた。

◎ デスカッションの感想

今回新たに考えるきっかけとなった「私にとってゴシップとは何か」についての3回のデスカッションを経ることで自分に内在しているいろんな面を発見した。始めのデスカッション相手であるランランさんと話し合った内容の中で自分と関わるところは相手の話しや自分のことを他人から聞くとこれからの人間関係に参考になれるということだった。

裏話だからといってその人の悪い話だけをしているわけではない。裏話というのは悪いことではないと思う。でも他人のプライベートな話をよく知らない人とするというのは自分としてはあまり望ましくないと思った。そこで問われたのがタマーシュさんとのデスカッションである。ゴシップの内容よりゴシップする行為が悪いと思うときがあるという話だったが、それは私のよく知らない人との場合である。逆に考えてみれば、相手が知ったばかりの人だとすると、よく知らない人だからこそ話しにくいプライバシーなことを話すことで信頼関係をも高めることができるということに同感させられた。

私がゴシップする際に主に聞き手の立場でいたのは、自分が責任を取らなければならないことをあえて話す必要がないという気持ちと、でも聞くのはいくらでも聞けると言う自分の中の二重性もタマーシュさんとのやり取りの中で問われた。私の心の奥には、つまり本心・本音は「知りたい・聴きたい」という思いが強いと思うが、回りの環境や雰囲気、自分のイメージなどにこだわってゴシップをするときにもそういうことを気にしているということが分かった。ゴシップは友達とよくするというのも責任感をもたなければならない見知らぬ人の話しをするよりも自分の知っている人の話しを信頼感のある友達としたほうが私としては安心できるし、信頼できるからである。

◎ 結論

一番始めに出した動機レポートでは「私にとってゴシップとは韓国の世間話から離れないようにする手段でありまた、生活をする中での知恵でもあるのだ」と書いたが、ここでいう「知恵」とはゴシップで扱われる人のことを話すことで見られる人間の様子から何

かを学ぶということであることを3回のディスカッションを通して分かった。結局このレポートを通じて言いたいという事は韓国から離れている私の現在の状況がゴシップを親しみやすくしているということである。また、韓国の世間話から離れないようにする、気楽に聞ける情報の一つがこのゴシップでこれからの人間関係にも参考になれる教科書みたいなものだという事である。

今年の1月に日本に来てから、私が一番楽しみにしている時間とは韓国にいる友達との電話やチャットをすることである。4月から始まった日本での学校生活は教室のルールや新しく会ったクラスの人たち、教室内で扱っている内容などと皆私には新しくてまだ、慣れない緊張感あふれる生活である。でも、このような忙しく未熟な生活の中で私の小さな支えとなっているのがこのゴシップである。

ゴシップとは友達とのおしゃべりの中で主に素材とされる話しである。たまに友達と電話で韓国の話しや知り合いの話しをしていると、人たちのいろんな生活ぶりや最近の辺りの友達のビックニュースや芸能人の最新ニュースを聞くことができる。芸能人の話しや知り合いの話し、政治の話しなど、韓国の話しをたくさん聞ける時間である。その時だけは気が楽になれるような感じがする。もちろんそれは話しの相手が自分と親しい友達であるから、いくら秘密話しでもこの話しが外へ出されたり、広がったりする恐れを考えないままお互いを信じながら話すことができるために感じられる気持ちである。それは気楽に何でもかんでも全部話せる友達と言う存在がいるという友達の存在の大切さをも感じられる瞬間でもある。韓国の友達との触れ合いがとても満ちている今の状況でゴシップという話題はそんな枯れた自分の心の中を気楽にささやいてくれるものなのである。

人を通して人を見るということディスカッションの自分の意見の中にも書いたが、信頼する友達の話しから私はいろんなことを学んでいるのだ。ゴシップという裏で話す、プライベートなことの中には面白い話、驚く話し、新しい話し、お祝いの話し、悪口もあればほめ言葉もあるので私の定義の中でのゴシップは皆悪い話しだけではない。このようなゴシップから私は人間を見て、これからの人間関係に参考にしている。

◎ おわりに

今回のレポートの結論をだすまで、いろんな自分の中での工夫や他の人の意見や疑問点を聞かれることで今でも考えがすっきりまとまらないのではあるが、結局話は「自分を語る」ことにもどっていた。自分の意見を人に納得させるというのはとても大切なことであるが、簡単なことではないということに気づいた。人それぞれ考え方が違うからだと思う。

最初、このテーマを選んだ理由をサポーターに聞かれた時、なにも答えられない自分の姿があったが、何度もの繰り返しの作業を行うたびに始めに理由を聞かされたわけに気づくことができた。それにまたその理由がとても大事なワンステップだったということをも

気づいた。自分の日常生活で無意識に行動したり行っている活動や習慣・思考することには意外といろいろな自分とつながりのある大切な意味が少しあるいは多く含まれていると、
いうことをこのレポートを書きながら感じた。自分の考えを持つということの大切さを意識することのできたよいきっかけになったと思う。